

ISSN 1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第31集

新改南ヶ内遺跡

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 10

土佐山田町教育委員会

新改南ヶ内遺跡

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 10

土佐山田町教育委員会



南ヶ内遺跡



井戸 2



井戸 1

序 文

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稲作農業が盛んに行われてきました。しかし、近年の農業構造改善に伴い、農業経営は複雑化、多様化してきております。そうした状況のなか、本町におきましても土地改良事業や圃場整備事業が断続的に実施されております。

平成8年度から、新改中部地区において県営圃場整備が行なわれるようになり、当教育委員会では、事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度より実施し、旧石器時代から近世に至る貴重な資料が得られています。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や、文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を正来も守り伝えていく契機となれば幸です。

最後になりましたが、発掘調査に際しては、高知県中央東耕地事務所、新改中部土地改良、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告書に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成13年10月1日

土佐山田町教育委員委員会

教育長 原 初 恵

例　　言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成11年度に実施した新改中部地区累営圃場整備事業に伴う新改南ヶ内遺跡発掘調査報告書である。
2. 新改南ヶ内遺跡は、高知県香美郡土佐山田町新改字南ヶ内460番地他に所在する。
3. 当該地の試掘調査は、平成9年9月10日から同年12月3日、発掘調査は、南ヶ内Ⅰ区を平成10年10月1日から同年10月23日、調査面積370m²、Ⅱ区の第1次調査を平成10年10月1日から平成11年1月22日、調査面積180m²、第2次調査を平成11年8月2日から平成11年10月4日、調査面積2,182m²、Ⅲ区を平成11年5月14日から平成11年6月18日、調査面積1,200m²である。引き続き資料整理・報告書作成を平成12年度から13年度にかけて行った。
4. 調査体制は以下の通りである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成9年度

　　教育長　中山熊義

　　調査事務　中山泰弘

　　調査担当　中山泰弘

平成10年度・11年度

　　教育長　中山熊義

　　調査事務　山本　宗

調査担当 土佐山田町教育委員会

　　主　事　中山泰弘(平成10・11・12年度)

　　補助員　山本哲也(平成11年度)別府大学大学院2回生

　　補助員　田原　葉(平成11年度)京都橘女子大学3回生

調査指導 高知県教育委員会文化財保護室埋蔵文化財班

　　社会教育主事　松田知彦

5. 発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、新改中部土地改良、高知県中央東耕地事務所の協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員　大塚俊明、今井春恵、貞岡重道、佐野宣重、田村香代子、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、井上郁雄、山崎政子、山本育子、池知誠男、小松一仁、池　宣弘、吉川　競、竹村絹子、坂本将隆、岡崎友輝年、坂田青児、浦西慶規、藤田倫美、伊藤彰記、原　拓弥、濱田　誠、永森恭裕、中内啓貴、杉田健一

整理作業員　伊藤　仁、中村千代、岡林　光、竹崎寛将、井上博恵、研川英征、高橋加奈、風間後秀(高知工科大学学生)、山口　正(高知工科大学学生)

6. 本書の執筆は、編集は中山が行なった。

7. 新改南ヶ内遺跡の調査では、水野正好(奈良大学学長)、森　郁夫(帝塚山大学大学院教授)、金子裕之(奈良国立文化財研究所考古計画研究室長)、高橋克壽(奈良国立文化財研究所文部技官)を始め数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謙意を表したい。

川端清司(財团法人高知県立埋蔵文化財センター嘱託職員)、岡本桂典(高知県立歴史民俗資料館課長心得)、順

不同、敬称略

8. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「99-2YSM」を使用する。

9. 造構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状造構)、SK(土壤)、SD(溝状造構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壤)、P(柱穴又はピット)を使用する。

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法	
1. 調査に至る経過	6
2. 調査の方法	6
第Ⅲ章 遺構と遺物	
1. I 区	8
2. II 区	8
(1) 握立柱建物	8
(2) 土坑	14
(3) 井戸	14
(4) 溝	18
(5) 塚又は横列	20
(6) ビット	21
(7) 性格不明遺構	22
(8) 包含層遺物	22
3. III 区	
(1) 土坑	23
(2) ビット	23
(3) 包含層遺物	25
第Ⅳ章 まとめ	
第1節 総括	26
第2節 「長宗我部地検帳」からみた南ヶ内周辺について	26
遺構計測表	27
遺構観察表	28
写真図版	

挿図目次

図1 土佐山田町位置図	2	図33 SK-5	22
図2 周辺の遺跡分布図	5	図附図 SK-10	附図
図3 遺跡周辺の地形図	6	図24 SE-1	16
図4 発掘調査位置図	7	図25 SE-2	17
図5 SB-1 半・断面図	8	図26 SD-1	19
図6 SB-2	8	図附図 SD-2	附図
図7 SB-3	8	図附図 SD-3	附図
図8 SB-4	9	図附図 SD-7	附図
図9 SB-5	9	図附図 SD-14	附図
図10 SB-6	9	図27 SA-1	20
図11 SB-7	10	図28 SA-2	20
図12 SB-8	10	図29 SA-3	20
図13 SB-9	10	図30 SA-4	20
図14 SB-10	11	図31 SA-5	20
図15 SB-11	11	図32 SA-6	20
図16 SB-12	11	図33 ピット	22
図17 SB-13	12	図34 SK-1	23
図18 SB-14	12	図34 SK-2	23
図19 SB-15	12	図35 III区遺構平面図	24
図20 SB-16	13	図36 II区出土遺物	31
図21 SB-17	13	図37 II区出土遺物	32
図22 SB-18	13	図38 II区出土遺物	33
図23 SB-19	14	図39 III区出土遺物	34

写真図版

巻頭カラー1 南ヶ内遺跡II区全景

巻頭カラー2 井戸1(断面)井戸2(断面)

- PL1 II区1次調査区遺構検出状態(南より)、SD1・2遺構検出状態(南より)、SD1・2完掘状況(南より)、SD1・2完掘状況(北より)SD2・ピット遺構検出状態(北西より)、II区SD2・ピット遺構完掘状況(南より)、SK1完掘状況(北西より)、セクション(南より)
- PL2 II区2次調査区遺構検出状態(南より)(南より)(西より)、ピット検出状況(南より)、SK5完掘状況(南より)、SE2遺構検出状態(南より)、SE2完掘状況(南より)
- PL3 SE2断面状況(南より)、SE1遺構検出状態、(南より)、SE1上部状況(西より)、SE1上部状況(西より)、SE1完掘状況(北より)、SE1断面状況(西より)、SD1遺物出土状況、SD1遺物出土状況

- PL4 SD1遺物出土状況、SD1遺物出土状況、SE1遺物出土状況、SE1遺物出土状況、P55遺物出土状況、P112遺物出土状況、P214遺物出土状況
- PL5 P161遺物出土状況、SX6遺物出土状況、P234遺物出土状況、SD7遺物出土状況、SD7遺物出土状況、SX6遺物出土状況、SX6遺物出土状況、P269遺物出土状況
- PL6 P88遺物出土状況、P21遺物出土状況、Ⅲ区遺構検出状態(東より)、遺構検出状態(西より)、遺構検出状態(西より)、遺構検出状態(東より)、遺構完掘状況(東より)、遺構完掘状況(東より)
- PL7 遺構完掘状況(東より)、遺構完掘状況(南より)、SK1完掘状況(南より) SK2完掘状況(南より)、P47遺物出土状況、P23・133遺物出土状況、P133遺物出土状況、P23遺物出土状況
- PL8 出土遺物(土師質土器)
- PL9 出土遺物(土師質土器)、(染付け)、(白磁)
- PL10 出土遺物(土師質土器)
- PL11 出土遺物(土師質土器)、(青磁)、(白磁)、(染付け)
- PL12 出土遺物(土師器)、(土師質土器)、(布目瓦)
- PL13 出土遺物(備前焼)、(布目瓦)
- PL14 出土遺物(土師質土器)、(瓦器)、(備前焼)
- PL15 (石硯)、(泥仏)
- PL16 (土師質土器)、(軒平瓦)、(青磁)
- PL17 (太形蛤刃石斧)、(石斧)、(五輪塔)

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は、高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、劍山山系の白岳山(1,770m)の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古米阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には発達した河岸段丘が発達し⁽¹⁾、土佐山田町で流路を南に変え南流する。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縱断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野⁽²⁾、山田野⁽³⁾と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では15m~10mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部⁽⁴⁾、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部⁽⁵⁾で確認されている。また縄文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡ととは同じ位置に所在する⁽⁶⁾。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群(弥生時代~近世)⁽⁷⁾を始め大篠遺跡(弥生時代)⁽⁸⁾が分布する。また、条理制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川き活性氾濫をたびたび繰り返しており、条理制地割りの乱れた地域も多く、旧流路も数本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm~50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となつた郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もさきの景観の名残がみられる。台地面の長軸(北東~南西方向)には沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1) 『南国市史』 上巻 南国市教育委員会 1979
- (2) 『野市町史』 上巻 野市町教育委員会 1992

- (3) 「土佐山田町史」 土佐山田町教育委員会 1979
- (4) 佐野楠目山遺跡からは石核、剥片などが表揚されている。
- (5) 新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6) 新改舗敷田丸遺跡、林田シタノジ遺跡、太郎丸遺跡などが挙げられる。
- (7) 『冨田遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会
- (8) 許(1)に同じ

参考文献

「土佐山田町史」土佐山田町教育委員会 1979
 「角川 日本地名大辞典 39高知県」 角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ、県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々とした人の営みを台地に刻み付けている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡⁽¹⁾の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積遺物ではあるがチヤート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡⁽²⁾と非常に似ている。続く、繩文時代では、新改川の河岸段丘に立地する屋舗田丸遺跡⁽³⁾より早期押型文系土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡⁽⁴⁾からは、晩期の土器4基と突帶文土器が出土し、北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡⁽⁵⁾からは早期押型文土器、厚手無紋の葛鳥式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎KII式土器とともに多量のサヌカイト製の石礫が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上、林田シタノヂ遺跡⁽⁶⁾が存在するが、ここでは、ピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞穴遺跡⁽⁷⁾が最古である。この遺跡は金山石灰岩できた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は凹線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄族、石錘、有孔鹿角製品、貝輪、骨製管玉、瑪瑙製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡⁽⁸⁾、雪ヶ峰遺跡⁽⁹⁾、影山遺跡⁽¹⁰⁾がある。中期後半に属する遺跡は多く原遺跡⁽¹¹⁾、原南遺跡⁽¹²⁾からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等集落を構成する遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡⁽¹³⁾が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。弥生時代も後期になると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表されるよう後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡⁽¹⁴⁾では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡⁽¹⁵⁾が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄族が出土している。

古墳時代では、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳⁽¹⁶⁾は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯跡群⁽¹⁷⁾を挙げることができる奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江施寺跡⁽¹⁸⁾の瓦を焼成したタンガン窯跡⁽¹⁹⁾や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡⁽²⁰⁾も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡⁽²¹⁾、須江北遺跡⁽²²⁾からは官衙的据立建跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には渦曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区は、その西方約2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条理制遺構⁽²³⁾を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは、古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地⁽²⁴⁾と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏⁽²⁵⁾が建久4年(1193)に土佐国へ入部以来、勢力をのばし、植目の山田城を本拠⁽²⁶⁾に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山⁽²⁷⁾による山田堀、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町⁽²⁸⁾として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城城下町の経済圏として発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡「土佐山田史談」第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題(VI)」2000
- (2) 「奥谷南遺跡Ⅰ」(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- (3) 「埋文こうち」第14号 P13 高知県教育委員会文化財保護室 2000
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5) 「飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書」日本道路公団・高知県教育委員会 1983
- (6) 「林田シタノヂ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」土佐山田町教育委員会 1993
- (7) 「龍河洞」高知県教育委員会 1959
- (8) 「土佐山田町史」 P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じP52
- (10) 註8と同じP52
- (11) 「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡-」高知県教育委員会 1982
「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡Ⅱ-」「高知県文化財調査報告書」第25集 高知県教育委員会 1984
- (12) 「原南遺跡発掘調査報告書」高知県文化財団 1991
- (13) 「ひびのき遺跡」土佐山田町教育委員会 1977
- (14) 「ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書」(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集)土佐山田町教育委員会 1990
- (15) 「林田遺跡発掘調査報告書」土佐山田町教育委員会 1985
- (16) 「伏原大塚古墳」(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集)土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18) 「高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江庵寺跡」高知県教育委員会 1970 「高知県埋蔵文化財報告書 第33集 比江庵寺跡発掘調査概報」高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20) 「新改東谷古窯跡群発掘調査」土佐山田町教育委員会
- (21) 「土佐山田北部遺跡群-山田北部県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書-」(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)土佐山田町教育委員会 1992
- (22) 註21と同じ
- (23) 岡本健児 「土佐神道考古学5」 「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じ
- (25) 註8と同じ
- (26) 註8と同じ
- (27) 註8と同じ



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山古占墳	古墳	35	伏木大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生～古墳	103	三反山田跡	平安
2	古松古墳	*	36	八王寺古墳	*	70	改川母祖墓	古墳～平安	104	入野南遺跡	平安・中世
3	植田古墳群	*	37	前山1・2号古墳	*	71	久次上城跡	中世	105	植村城跡	中世
4	西久保古墳	*	38	前山3号古墳	*	72	ハマダ遺跡	古墳～平安	106	植木カツ道跡	弥生・古墳
5	次郎ヶ丘古西古墳	*	39	山原古墳	*	73	猪の出遺跡	*	107	稚鹿土居遺跡	平安・中世
6	次郎ヶ丘古墳	*	40	三島古占墳	*	74	奥ノ内遺跡	*	108	西ケラドリ遺跡	弥生～近世
7	四村氏古墳	*	41	西ノ内原跡	*	75	神ノ上居城跡	中世	109	モリカワク遺跡	*
8	亀ヶ谷1号古墳	*	42	小山町1号塙跡	古墳・奈良	76	白露田遺跡	古墳～平安	110	山ノ内丸遺跡	中世
9	亀ヶ谷2号古墳	*	43	小山町2号塙跡	*	77	中ノ上居城跡	中世	111	梅木牛子塙跡	*
10	須江口1号古アカ古墳	*	44	小山町3号塙跡	*	78	前原遺跡	平安～中世	112	山田氏庭代官所	*
11	新改古墳	*	45	西谷1・2号塙跡	奈良	79	北山城跡	中世	113	メカウイ道跡	弥生～中世
12	新改2号古墳	*	46	東谷1号本塙跡	奈良・平安	80	北山守護寺	飛鳥・奈良	114	安谷川丸塙跡	古墳～平安
13	新改3号古墳	*	47	東谷1号旁塙	*	81	門ノ上道跡	弥生～平安	115	伏原遺跡	弥生～平安
14	新改4号古墳	*	48	東谷2号旁塙	*	82	南御母遺跡	古墳	116	梅木城跡	中世
15	熊山1号古墳	*	49	林ノ谷1号塙跡	*	83	三城跡	中世	117	ひのきの大河内遺跡	弥生～近世
16	熊山2号古墳	*	50	林ノ谷2号塙跡	*	84	三畠塙跡	弥生～平安	118	田所社遺跡	弥生～中世
17	西ノ内1号古墳	*	51	林ノ谷3号塙跡	*	85	三塙跡	古墳～中世	119	ひのきのき道跡	弥生～中世
18	西ノ内2号古墳	*	52	大谷1号塙跡	*	86	白石遺跡	古墳～平安	120	ひのきの木母遺跡	弥生～中世
19	小山町2号古墳	*	53	大谷2号側塙	*	87	水原遺跡	弥生～平安	121	ひのきのやウジ溝跡	弥生～近世
20	小山町2号古墳	*	54	大谷3号塙跡	*	88	福生遺跡	奈良～中世	122	人頭遺跡	*
21	タンガヨ古墳	*	55	八ノ谷塙跡	平安	89	有光山城跡	平安	123	大西戸遺跡	弥生・古墳
22	板坂古墳	*	56	慈葉寺塙跡	古墳～奈良	90	高須の西道路	古墳～平安	124	越日遺跡	弥生～近世
23	板坂古墳	*	57	大津2・3反田側塙	古墳	91	山田三又又遺跡	高須～平安	125	種崎前遺跡	弥生～中世
24	枕杖末古墳	*	58	大字今ニヤツキ2号塙	奈良・平安	92	山田三ツ又遺跡	*	126	原遺跡	*
25	中沢古墳	*	59	大字今ニヤツキ3号塙	*	93	山田三ツ又遺跡	弥生～中世	127	古町西遺跡	弥生～平安
26	津瀬古墳	*	60	タンノガシ塙跡	飛鳥	94	谷筋除部跡	近世	128	古町北遺跡	弥生・古墳
27	桜谷古墳	*	61	千庶塙跡	古墳	95	野ノ上神社	近世	129	公儀の井戸2	近世
28	前行山1号古墳	*	62	長谷山1号塙跡	平安	96	須江上段遺跡	古墳～近世	130	公儀の井戸1	*
29	前行山2号古墳	*	63	長谷山2号塙跡	*	97	須江駅跡	平安	131	松本山夾入寺跡	中世・近世
30	母神古墳	*	64	東ノ上居遺跡	古墳～中世	98	須江北遺跡	古墳～平安	132	勝原寺跡	*
31	大元松古墳	*	65	植木山居塙跡	*	99	高瀬川舟運跡	奈良～中世	133	勝家寺跡	*
32	大元松北古墳	*	66	寺中塙跡	古墳～中世	100	次田物見の城跡	中世	134		*
33	寺岳古墳	*	67	北野塙跡	古墳～中世	101	南ノ内溝跡	弥生～中世	135		*
34	小倉山古墳	*	68	辻田遺跡	古墳～平安	102	履波田丸塙跡	中世	136		*

図2 周辺の遺跡分布図

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

新改中部土地改良区内は県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、平成8、9、10年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県中央耕地事務所、新改中部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土を主に重機により除去穀を行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上で掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。また、最終的に航空測量を実施した。

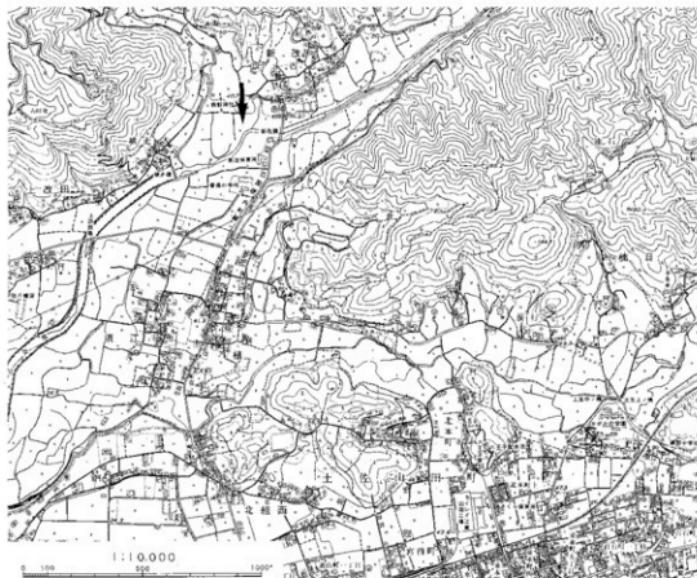


図3 遺跡周辺の地形図

1:1,000
100m

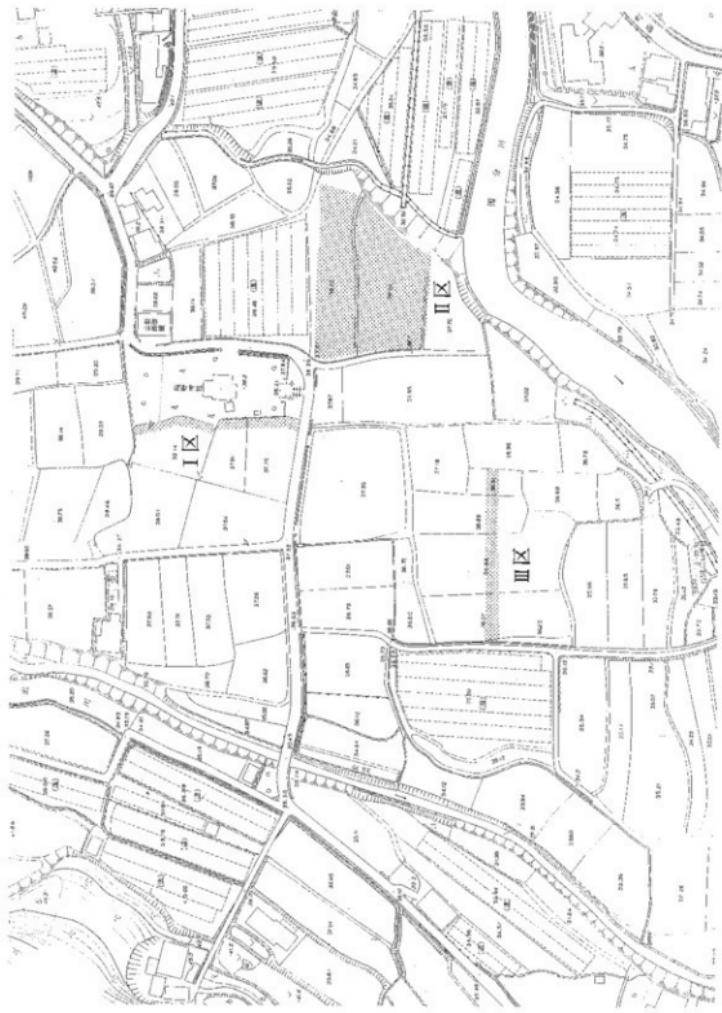


图4 美丽湖位置图

第Ⅲ章 遺構と遺物

1. I 区

I 区は熊野神社西側に施工計画されている農業用水路部分をトレンチによる発掘調査を実施したが遺構の確認には至らなかった。遺物は、土師質土器、須恵器などの小片が出土している。

2. II 区

遺構については、調査区北部に集中している。全般に表土以下の土層が薄く遺物包含層も僅かしか層位をなしていない。遺構は地山でしか検出できなかった。

今回の発掘調査で確認された遺構のうち、掘立柱建物跡19棟、土壙2基、堀又は柵跡6列、井戸2基、溝跡5条、ピット14個について報告する。

(1)掘立柱建物跡

SB-1(図5)

調査区北西部に位置している。規模は梁間1間(1.9m)、桁行2間(6.1m)の東西棟建物である。棟方向はN=84°-W、面積は11.59m²である。桁行(南北)の柱間寸法は西側で3.6m、東側で2.6mであり、柱穴は円形で、直径20.4cm~40.3cm、深さ7cm~16.5cmである。根石は確認されていない。

遺物は図示できるものはない。

SB-2(図6)

調査区北西部に位置し、SB-3、SB-4、SB-5と一部重なっている。梁間2間(3.4m)、桁行3間(4.2m)の東西棟の建物である。棟方向はN=5°-W、面積14.28m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.3m~1.6mであり、円形の柱穴は、直径20cm~50cm、深さ13cm~28cmで根石の残存している柱穴がある。

遺物は図示できるものはない。

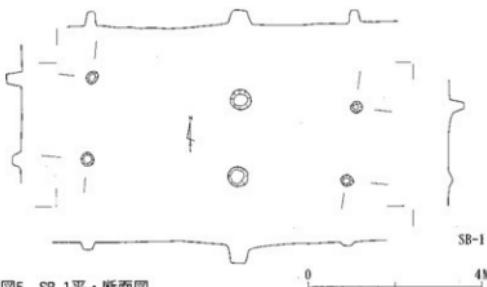


図5 SB-1平・断面図

SB-3(図7)

調査区北西部に位置し、SB-3、SB-4、SB-5と一部重なっている。梁間1間(2.3m)、桁行2間(3.9m)の南北棟の建物である。棟方向はN=8°-W、面積は8.97m²である。桁行(南北)の柱間寸法は1.8m~2.0mであり、円形の柱穴は直径20cm~34cm、深さ6cm~16cmで根石の残存している柱穴がある。

遺物は図示できるものはない。



図6 SB-2平・断面図



図7 SB-3平・断面図

SB-4(図8)

調査区北西部に位置し、SB-2、SB-3、SB-5と一部重なっている。梁間1間(2.5m)、桁行3間(5.6m)の南北棟の建物である。棟方向はN-6°-W、面積は14m²である。桁行(南北)の柱間寸法は1.8m~2.2mであり、円形の柱穴は直径28cm~39cm、深さ6.6cm~20.3cmであり、根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できるものはない。

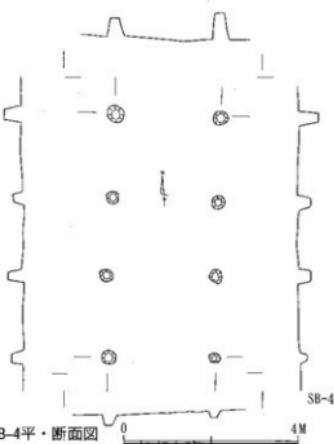


図8 SB-4平・断面図

SB-5(図9)

調査区北西部に位置し、SB-2、SB-3、SB-4と一部重なっている。梁間1間(2.2m)、桁行3間(5.5m)の南北棟の建物である。棟方向N-4°-W、面積は12.1m²である。桁行(南北)柱間寸法は1.8cm~1.9cmであり、円形の柱穴は直径30cm~39cm、深さ5.8cm~29cmであり根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できる遺物はない。

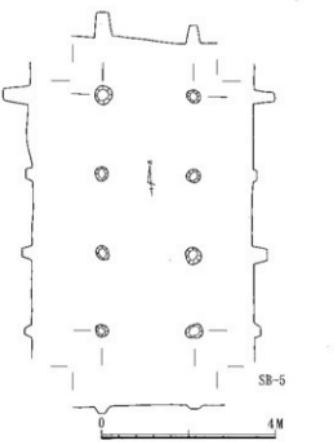


図9 SB-5平・断面図

SB-6(図10)

調査区北西部に位置し、SB-2、SB-3、SB-4と一部重なっている。梁間1間(4m)、桁行3間(5m)の南北棟の建物である。棟方向はN-4°-W、面積は20m²である。桁行(東西)の柱間寸法は2.3m~2.7mであり、円形の柱穴は直径30cm~42cmであり、根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。

図10 SB-6平・断面図

SB-7(図11)

調査区の北西部に位置し、SB-6、SE-1と一部重なっている梁間2間(3.5m)、桁行(4.5m)の南北棟の建物である。棟方向はN-3°-W、面積は15.75m²である。北辺の北東隅の柱穴2個は検出されていない。桁行(南北)の柱間寸法は2.2m~2.3mであり、北西隅が不整形で他は円形の平面プランを有し、直径40cm~62cm、深さ23cm~28cmであり根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できる遺物はない。



図11 SB-7平・断面図

SB-8(図12)

調査区北西部に位置し、SB-10、SB-11と一部重なっている梁間1間(2.3m)桁行2間(4m)の南北棟の建物である。棟方向はN-3°-W、面積は9.2m²である。桁行(南北)の柱間寸法は1.8m~2mであり、円形の柱穴の柱穴は直径30cm~52cm、深さ14cm~23cmであり根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。



図12 SB-8平・断面図

SB-9(図13)

調査区北西部に位置し、SB-6、SB10、SB11と一部重なっている。梁間3間(3.3m)、桁行4間(7.1m)の身舎に南東隅に庇を有した東西棟絶柱建物で、溝に区画された北西部のブロックでは最大規模の建物である。棟方向はN-11°-W、面積は32.62m²である。桁行(東西)柱間寸法は1.5m~2.2m、梁間(南北)1.0~1.8mであり、円形の柱穴は直径30cm~60cm、深さ18cm~28cmであり、根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。

図13 SB-9平・断面図

SB-10(図14)

調査区北西部に位置し、SB-8、SB-9、SB-11と一部重なっている。梁間1間(1.8m)、桁行2間(3.7m)の東西棟の建物である。棟方向はN-9°-W、面積は666m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.5m~2.3mであり、円形の柱穴は直径30cm~40cm、深さ9cm~11cmであり、根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。



図14 SB-10平・断面図

SB-11(図15)

調査区北西部に位置し、SB-8、SB-9、SB-10と一部重なっている。梁間2間(4.3m)、桁行2間(4.3m)の東西棟の建物である。棟方向はN-12°-W、面積は18.49m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.8m~2.4mであり、柱穴30cm~50cm、深さ15cm~29cmであり根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できる遺物はない。

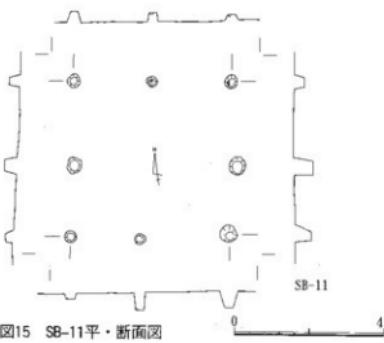


図15 SB-11平・断面図

SB-12(図16)

調査区北部に位置し、梁間1間(2.5m)桁行2間(5.9m)の東西棟の建物である。棟方向はN-12°-W、面積は14.75m²である。桁行(東西)の柱間寸法は2.5~3.9mであり、円形の柱穴は直径30cm~40cm、深さ15cm~24cmであり、根石確認されていない。

図示できる遺物はない。

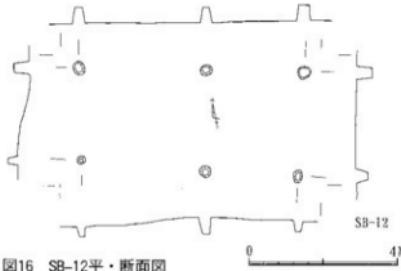


図16 SB-12平・断面図

SB-13(図17)

調査区北部に位置し、梁間1間(1.4m)、桁行2間(3.5m)の東西棟の建物である。棟方向はN-15°-W、面積4.9m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.5m~1.9mであり、円形の柱穴は直径34cm~55cm、深さ12cm~29cmであり根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。

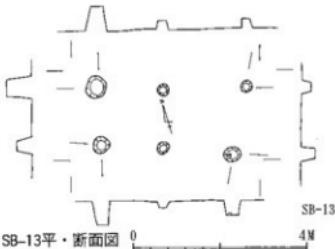


図17 SB-13平・断面図 0 4M

SB-14(図18)

調査区中央部に位置し、梁間2間(3.5m)、桁行4間(9.4m)の東西棟の建物である。棟方向はN-10°-W、面積32.9m²である。桁間(東西)柱間寸法は2m~2.6m、円形の柱穴は直径30cm~45cm、深さ21cm~35cmであり根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。

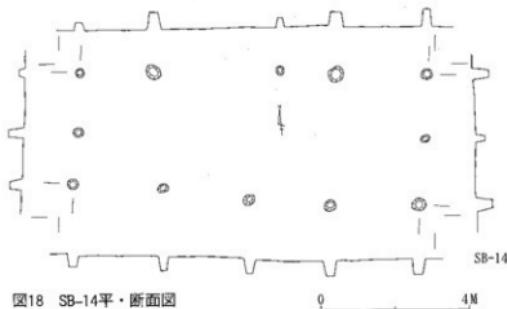


図18 SB-14平・断面図 0 4M

SB-15(図19)

調査区中央部に位置し、梁間1間(1.7m)、桁行2間(3.9m)の東西棟の建物である。棟方向はN-6°-Wで面積は6.63m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.5m~2.0mであり、円形の柱間寸法は1.5m~2.0mであり、円形の柱穴は直径30cm~38cm、深さ21cm~32cmであり、根石は確認されていない。

遺物はP-175より備前焼が出土している。

遺物の器種は甕で口縁部の部分の破片である。内外面はロクロ調整で口縁部は丸く、折巻は確認できない。

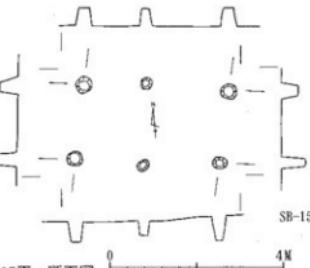


図19 SB-15平・断面図 0 4M

SB-16(図20)

調査区中央部に位置し、梁間1間(2.8m)桁行2間(4.3m)の東西棟の建物である。棟方向はN=54° -W、面積12.4m²cmである。桁行(東西)の柱間寸法は2.2であり、円形の柱穴は直径30cm~45cm、深さ20cm~26cmであり、根石は確認されていない。

図示できる遺物はない。

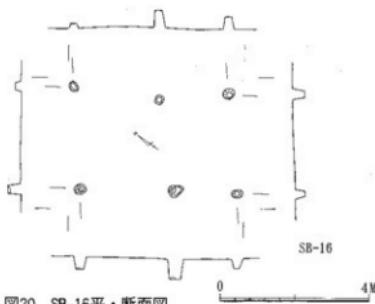


図20 SB-16平・断面図

SB-17(図21)

調査区中央部に位置し、梁間2間(4.1m)桁行3間(6.8m)の南北棟の建物である。棟方向はN=12° -W、面積27.88m²である。桁行(南北)の柱間寸法は2m~2.2mであり、円形の柱穴は直径28cm~48cm、深さ26cm~32cmであり、根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できる遺物はない。

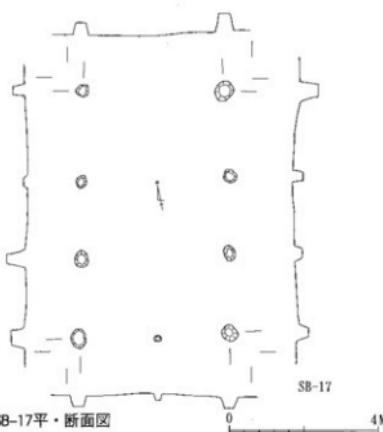
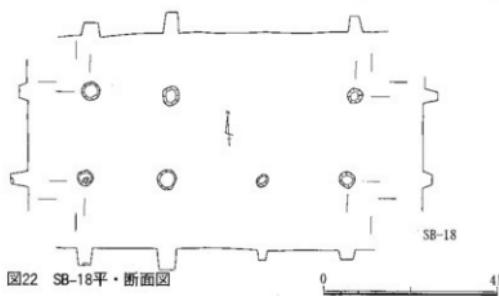


図21 SB-17平・断面図

SB-18(図22)

調査区南部に位置し、梁間1間(2.1m)、桁行3間(6.1m)東西棟の建物である。棟方向はN=8° -W、面積は14.64m²である。桁行(東西)の柱間寸法は2.1m~2.3mであり、円形の柱穴は直径28cm、深さ24cm~32cmであり、根石は確認されていない。

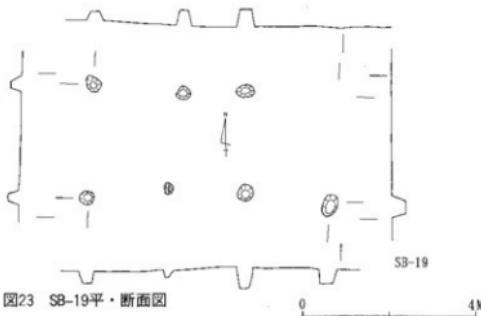
図示できる遺物はない。



SB-19(図23)

調査区南部に位置し、梁間1間(2.6m)、桁行3間(5.6m)の東西棟の建物である。棟方向はN-5°-W、面積は14.56m²である。桁行(東西)の柱間寸法は1.8m~2.1mであり、円形の柱穴は直径30cm~42cm、深さ18cmであり根石は確認されていない。

遺物は幾つかのピットより土師質土器等の細片が出土しているが図示できる遺物はない。



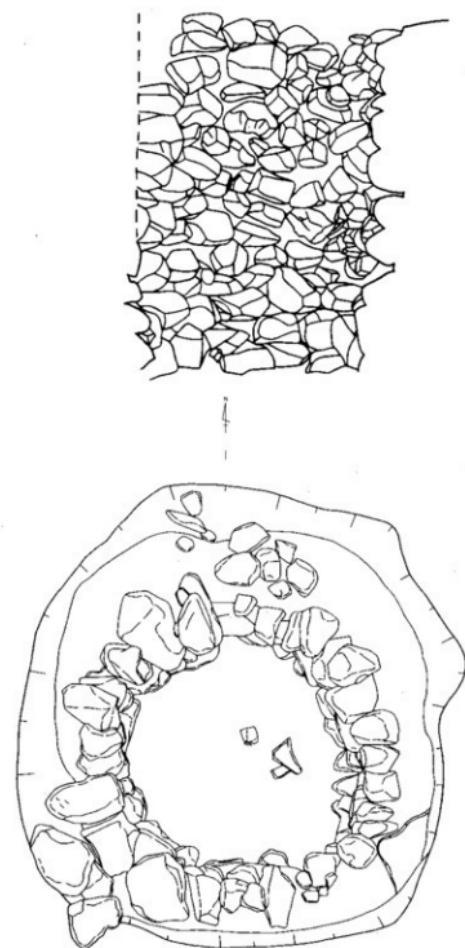
26は壇前焼窓の底部で外面は下から上方向に向かってナデがみられる。内面はヨコナデによる調整がみられる。74は土師質土器の土釜で井戸検出面から-130cmのレベルで出土。球形の胴部中央に鈎がつく口縁部は直立し、上胴部に2個の取手をつける。口縁部はヨコナデ、内面はハケ調整、底部は格子状タタキ目調節を施す。48は閃綠岩の太形始刃石斧で中ほどで折れている。刃部は両側を刃とし、折れた部分に一部、勝加工がみられる。49、50は砂岩製で五輪塔の一部である風輪、空輪を一石でつくられた物である。井戸検出面から-90cmのレベルで出土した。

SE-2(図25)

石組みの井戸である。掘方の北側は破壊されているが、掘方はほぼ円形で直径2.6m、井戸の本体は砂岩を主としており、珪岩等は僅少である。上罐の内面1.40m、検出面からウォーターレベルまでの深さは2mである。使用されている石は人頭大の石材が多く円礫、角礫の両方が用いられ積み方は、SE-2に比べて丁寧に積まれている。井筒は確認されていない。

遺物は井戸内部より土師質土器の細片が出土しているが図示できるものはない。また掘り方からの出土遺物はない。

SE-1(図24)



BL-38.433 —

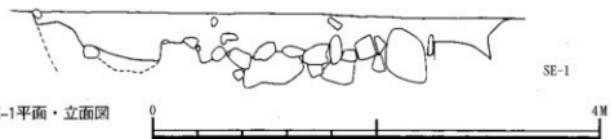
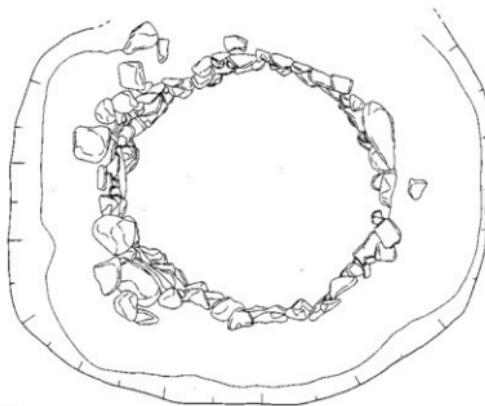
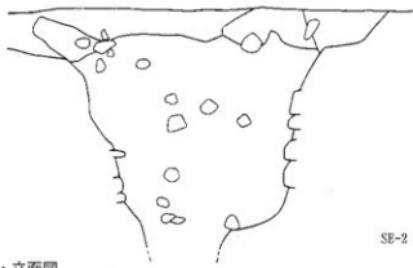


図24 SE-1平面・立面図

SE-2(図25)



DL=38.433



SE-2

図25 SE-2平面・立面図



(4)溝

検出された溝跡は14条あるが特にSD-1、3、4は、その規模、配置、付属遺構等を勘案すれば明らかに他の溝跡とは様相が異なり屋敷の区画溝と考えられる。ここでは遺物が出土した溝跡のみ報告する。

SD-1(図26)

II区の第1次調査により調査区西側で検出された溝跡で南北方向に直線的にのびる。確認延長30mである。幅2m、深さ41cmで断面形状は箱型である。埋土層は2層に分層される。1層は褐灰色土層、2層は暗褐色土層で溝跡底部には拳大から人頭大の珪岩の集積が一部みられる。レベルは北から南へとさがる。

出土遺物(5・6・20・42・43・44)

遺物は6点出土しており、白磁2点、土師質土器1点、布目瓦3点である。5は白磁の杯で平坦な底部から体部は直線的に外上方に立ち上がる。口縁部端内面は口禿で口縁部端内面以外は施釉されている。底部、外面ともロクロ調整を施す。6は白磁の皿で平坦な底部から直線的に立ち上がる。体部は短く口縁部端内面は口禿で口縁部端内面以外は施釉されている。20は土師質土器の杯で全体的に摩耗している。平坦な底部から体部は直線的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。外面はヨコナデが辛うじて判る。底部は回転糸切りである。42・43・44はともに布目瓦で内面は布目痕がみられ、側、外面にはヘラによるナデ調整を施す。

SD-3(図附図)

II区北西部に位置し、北から南方向に直線的にのびる。SE-1、SE-2を備える屋敷とを区画する溝である。確認延長16.5m、幅1.3m、深さ40cm前後、断面は形状は逆台形状である。溝跡レベルは北から南へと低くなる。埋土は3層に分かれ1層は明褐色土層、2層は褐灰色土層、3層褐灰色粘質土層である。

出土遺物(7・12・28)

出土遺物は3点で土師質土器2点、青磁1点が出土している。7は土師質土器の杯で平坦な底部から直線的に立ち上がり口縁部は丸い。ロクロ形成、回転ヨコナデ調整を施し、底部は回転糸切りである。12は土師質土器の杯で平坦な底部から直線的に立ち上がる。内外面ともにロクロ形成ヨコナデ調整が施され、底部内面はヨコナデ調整による段がみられる。底部は回転糸切りである。28は青磁の口縁部の破片で透明感のある淡いオリーブ灰色をした釉が薄く施され貰入が認められる。

SD-4(図附図)

II区の中央部を東西方向に直線的にのびる。SD-3と接し屋敷区画溝である。確認延長55m、幅1~1.5m、深さは、西端部で11cm、中央部31cm、東端部43cmで溝底部は西から東方向へと低くなる。断面は西側で箱型、東側で二段の箱型状である。また西側に石列がみられる。埋土は2層で1層は暗褐色土層、2層は暗褐色粘質土層である。出土遺物(14・16・19・32)

遺物は4点出土しており、青磁1点、土師質土器3点である。14は土師質土器の杯で全体的に摩耗しているがロクロによるヨコナデ調整を施す。円盤状高台を有し、体部は直線的に立ち上がる。16は土師質土器の杯で全体的に摩耗している。ロクロによるヨコナデ調整を施す。19は土師質土器の杯で底部は回転糸切りで、平坦な底部から外反気味に立ち上がり口縁部に至り先端はやや尖る。32は青磁碗の口縁部の破片で全体に淡いオリーブ色の釉薬が施されている。

SD-5(図附図)

II区西側中央部に東西方向にのび、北側に曲がりSD4と接する。確認延長12.5m、幅25~27cm、深さは西端部4.8cm、中央部10.1cm東端部11.5cmで西側から東側方向へと低くなる。断面はほぼU字型を呈し、一部東側で広がった部分がある。埋土は1層で暗褐色土層である。

出土遺物(8)

遺物は磁器の染付小杯で、底部は高台が付く。底部高台外面は直線的に立ち上がり、やや内湾して立ち上がり、口縁部は外反し、口縁部は尖る。

SD-7(図附図)

II区南部に位置し、SD14の中ほどで、SD8と二流し、東西方向に直線的にのびる。確認延長29.5m、幅50cm~70cm、深さは西端部6.1cm中央部9.1cm東端部7.1cmで、中央部がやや低い。断面はU字型を呈し、埋土は1層で暗灰褐色土層である。なお、遺構の切り合い関係からSD8(暗褐色土層)からSD7へと再構築したと考えられ、SD7、SD8ともと同じSD14である。

出土遺物(23)

土師質土器が1点出土している。ロクロによるヨコナデ調整を施す。底部は平坦で斜上方に直線的に立ち上がる。内面はヨコナデによる段がある。底部は回転糸切りである。

SD-14(図附図)

II区南部に位置し、SD7、8と重複し、東西方向に直線的にのびる。確認延長29.5m、幅50cm、深さは西側端6.1cm、中央部9.1cm、東側端7.1cmで中央部がやや低い。埋土は1層で褐色土層でSD7、SD8と同一の溝である。

出土遺物(18・40)

土師質土器が2点で、ロクロによるヨコナデ調整で平坦な底部から直線的に立ち上がり中部でやや内湾的に立ち上がり口縁部で外反する。外面中体部よりヨコナデ調整の段が著しい。底部は回転糸切りによる切り離し痕がみられる。40は土師質土器の杯で、ロクロによるヨコナデ調整で平坦な底部より斜上方に立ち上がる。底部は回転糸切りである。

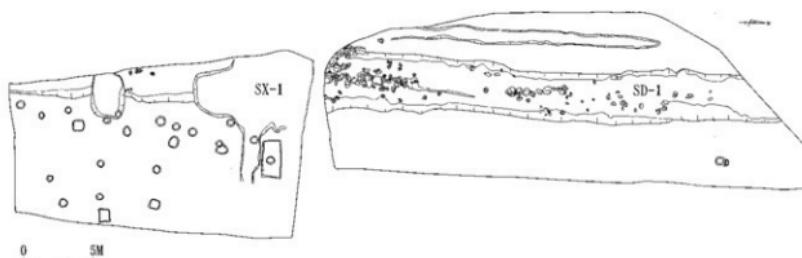


図26 II区SD-1遺構平面図

(5) 墓又は柵列

SA-1(図27)

調査区北西部、SB-2、SB-3、SB-4、SB-5の西側に方向を並行(南北)する柵列である。4間分(7.4m)を検出した。柱間は1.7m~1.8mで、円形の柱穴を呈し、直径31cm~42cm、深さ18cm~24cmである。



図27 SA-1平・断面図

SA-2(図28)

調査区北西部に位置し、SD-3に並行(南北)する柵列である。2間分(5.2m)を検出し、柱間は1.3m~2.0mと一定していない。円形の柱穴を呈し、直径30cm~41cm、深さ12cm~21cmである。

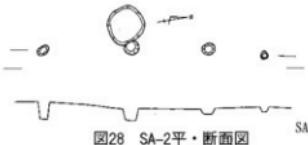


図28 SA-2平・断面図

SA-3(図29)

調査区北西部に位置し、SA-2と同じくSD-3に並行(南北)する柵列である。3間分(7m)を検出し、柱間寸法1.6m~1.7m。円形の柱穴を呈し、直径28cm~36cm、深さ19cm~23cm。

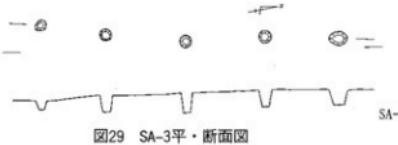


図29 SA-3平・断面図

SA-4(図30)

調査区北西部に位置し、SB-6、SB-1の間に並行(東西)する柵列である。4間分(8.6m)を検出した。柱間の寸法は2.6m~3.2mで円形の柱穴を呈し、直径29cm~32cm、深さ18cm~21cm。

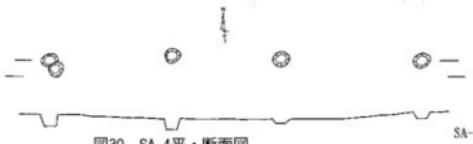


図30 SA-4平・断面図

SA-5(図31)

調査区中央部北側に位置し、SB-14に並行(東西)する。3間分(8.6m)を検出した。柱間は2.3m~3.2m。円形の柱穴を呈し、直径21cm~33cm、深さ21cm~23cm。

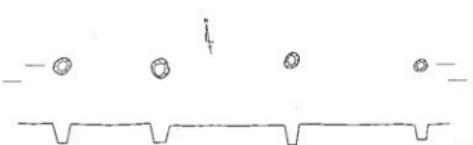


図31 SA-5平・断面図

SA-6(図32)

調査区中央部東側に位置し、3間分(5.4m)を検出した。柱間は1.5m~2m。円形の柱穴を呈し、直径29cm~33cm、深さ19cm~24cm。

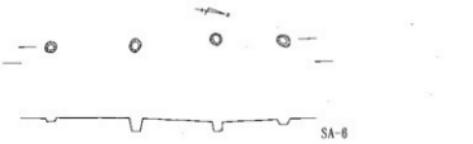


図32 SA-6平・断面図 0 4M

(6) ピット(図33)

P21はSX6の東側に接したところにある。平面形はほぼ円形を呈し、直径26~30cm、底部は平坦で、深さ17.9cmである。埋土は暗褐色土層。遺物は深さ5cmの位置で出土している。

出土遺物(1)

瓦質土器の杯が1点出土している。平坦な底部から体部は内湾気味に外上方に立ち上がり口縁部に至り、口縁部は外反する。全体に外面指圧痕、口縁内外面にヨコナデ調整、口縁部外面に強いヨコナデのため段上になっている。

P55はSB9内に位置している。平面形は不整円形を呈し、直径29~33cm、底部は平坦で深さ16.5cmである。埋土は暗褐色土層。遺物は深さ11cmの位置で出土している。

出土遺物(9・13)

土師質土器が2点出土している。9は土師質土器の小皿で全体的に摩耗が著しい。体部はロクロによるヨコナデ調整が施され、平坦な底部から、体部は短く直線的に立ち上がる。口縁部は尖る。13土師質土器の杯の底部で、体部はロクロによるヨコナデ調整が施され平坦な底部から直線的に立ち上がる。底部は回転糸切りである。

P88はSE2の南西のところにある。平面形は不整円形を呈し、直径34~40cm、底部は平坦で深さ17.1cmである。埋土は黄褐色土層。遺物は柱穴壁に張り付いた状態で出土している。

出土遺物(35)

龍泉窯の青磁碗が1点、出土している。内外面に淡いオリーブ色釉薬を施す。貼付けの輪高台から体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部と疊付け部分は露胎である。

P112はSB14内のところにある。平面形は円形を呈し、直径26~27cm、底部は平坦で北側の立ち上がりは勾配がきつい。深さ17.2cmである。埋土は暗灰褐色土層。遺物は深さ7cmの位置で出土している。

出土遺物(4)

土師質土器の杯が1点、出土している。体部はロクロによるヨコナデ調整が施され、底部切り離しは回転糸切りである。平坦な底部から斜上外面に直線的に立ち上がる。口縁部は尖る。内面にナデによる段が顕著である。外面はナデによる調整が施されているが段はない。

ピット出土遺物(2・10・11・15・27・29・30・31・37・38・56)

検出されているピットの内、実測図示できる遺物について述べることにする。出土地点、詳細は、出土遺物観察表を参照されたい。

2はP178(平面形は円形・直径30cm・深さ17.4cm)より出土した土師質土器の小皿で体部はロクロによるヨコナデ調整を施す。平坦な底部から体部は短く内湾気味に立ち上がり口縁部に至る口縁部は丸くおさめる。10はP161(平面形は円形・直径27.5cm・深さ17.4cm)より出土した土師質土器の杯で体部にロクロによるヨコナデ調整が施され、特に底部にナデによる段がある。底部は摩耗により不明。平坦な底部から直線的に立ち上がる口縁部は丸くおさめる。11はP214(平面形は不整円形・直径30~35cm・深さ18.1cm)より出土した土師質土器の杯で体部はロクロによるヨコナデ調整が施され、底部の切り離しは回転糸切りである。平坦な底部から直線的に立ち上がり口縁部に至る口縁部は尖る。15はP269(平面形は円形・直径25~30cm・深さ17.9cm)より出土した土師質土器の小皿である。全体的に摩耗が著しく、口縁部にロクロによるヨコナデ調整が僅かに確認できる。平坦な底部から体部は短く直線的に立ち上がる。口縁部でやや外反する。27はP310(平面形は三日月形・直径22.5~30cm・深さ3.5cm)より出土した備前焼の壺の底部で外面、内面ともにヨコナデによる調整が施されている。29はP126(平面形は円形・直径50~55cm・深さ11.2cm)より出土した白磁の口縁部で白色の釉薬が施され、胴部は丸み口縁部は外反し丸くおさめる。30はP234(平面形は円形・直径30cm・深さ11.4cm)から出土した土師質土器の鍋で口縁部の破片で全体的に摩耗している。著しく外傾斜し、外反するカーブをなす。口唇部の端部はやや肥厚。31はP135(平面形は梢円形・直径45~65cm・深さ27.3cm)から出土した青磁の口縁部で、淡いオリーブ色の釉薬がみられ胴部はや

や斜め上方で丸み口縁部は外反し、端は丸い。37はP254(平面形は円形・直径35~40cm・深さ20.4cm)より出土した土師質土器の小皿でロクロによるヨコナデ調整を施す。平坦な底部より直線上に立ち上がる。体部は短く口縁部は丸い、外面にヨコナデによる段がある。底部は回転糸切りである。38はP278(平面形は不整円形・直径50~70cm・深さ9.9cm)より出土した土師質土器の杯の底部でロクロによるヨコナデ調整が施され底部は回転糸切りがみられる。平坦な底部より直線に立ち上がる。56はP303(平面形は円形・直径30cm・深さ20.7cm)から出土した軒平瓦で軒部に三つ巴模様を配している。

(7)性格不明遺構(図附図)

SX-1

SD-1と切り合い関係にある。方形状を呈し、南北3.90m、東西3.60mで北側は東西方向にのびる溝により不明瞭である。

出土遺物(46)

泥仏が1点出土している。型枠に粘土をいれて製作された泥仏で台座と仏の下半身が残る。全体に金泥を塗布されていたと考えられる。

SX-6

II区の西北部に位置する。不整円形の形を呈し、西側の遺構輪郭は不明確である。南北4m、東西3.40mで深さ北端で4.5cm、中央部4.8cm、南端11.6cmと南側が低い。

出土遺物(3・47)

土師質土器1点、石硯1点が出土している。31は土師質土器は小皿でロクロによるヨコナデ調整をほどこす。体部は短く、底部から内済気味に立ち上がり口縁部に至る。口縁部は尖る。底部は回転糸切りである。47は石硯で粘板岩製である。陸部と海部が明確でない。

(8)包含層出土遺物(24・33・45)

遺物包含層より図示できる遺物として土師質土器1点、青磁1点、瓦器1点が出土している。24は土師質土器の杯でロクロによるヨコナデ調整が施される。平坦な底部から斜上方に外反する。器壁は厚く硬質である。口縁部は尖る。底部は回転糸切りである。33は青磁の口縁部で、淡いオリーブ色の釉薬を施す。胴部より口縁部にかけ角度を内側になし、外反する。45は瓦器の口縁部の破片で外反し口縁部で厚く肥大する。

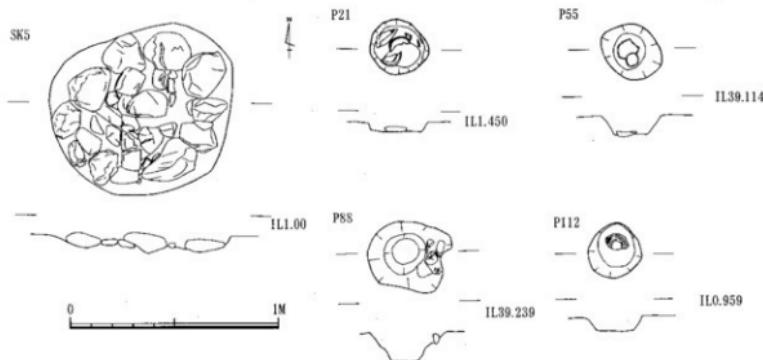


図33 II区SK-5・P21・55・88・112平・断面図

3. III区

III区は農道、用水路敷設計画区域の部分について発掘調査を実施した。遺構については表土以下の土層が薄く遺物包含層も僅かしか層をなしていない。遺構は、地山面にて検出した。

今回の調査で確認された遺構のうち、土坑2基、ピット14個について報告する。

(1) 土坑

SK-1(図34)

調査区の東部に位置している。南北2.60cm、東西1mの土坑で、掘り込みは殆どみられない。土坑上面には拳大から人頭大の大きさの扁平な石が集石状態で配されている。遺物は土師質土器の細片と炭片が土坑上面より出土している。

SK-2(図34)

調査区のやや中央部に位置している。東西3.60m、南北1.70mの土壙で、掘り込みは殆どみられない。SK-1と同じく、土坑上面には拳大から人頭大の大きさの扁平な石が集石状態で配されている。遺物は土師質土器の細片と炭片が土坑上面より出土している。

(2) ピット(図35)

ピット出土遺物(1・2・3・4・12・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24)

検出されているピットの内、14個から図示できる遺物が出土している。出土地点、詳細は、出土遺物観察表を参照されたい。

1はP84(平面形は円形・直径65~67cm・深さ26cm)より出土した土師質土器の杯である。平坦な底部より斜上外方に直線的に立ち上がり。口縁部は丸まる。内外面ともにロクロによる回転ヨコナデ調整が施される。2・3はP47(平面形は円形・直径60~63cm・深さ23cm)より出土した遺物で2は土師質土器の杯でロクロによるヨコナデ調整が施され、内底部には指頭によるナデが認められる。底部切り離しは回転糸切りである。ベタ底からやや段を持ちながら立ち上がり、口縁部端は尖る。外面はナデによる段が顕著である。3は土師器の杯でロクロによるヨコナデ調整が施され、ベタ底よりやや斜上外方に直線上に立ち上がる。底部は窓削りである。4はP113(平面形は不整円形・直径60~64cm・深さ38cm)より出土した土師質土器の杯でロクロによるヨコナデ調整が施され、底部は摩耗が著しく切り離しは不明。ベタ底から内済気味に立ち上がり中部でやや外反し口縁部に至り先端は尖る。内

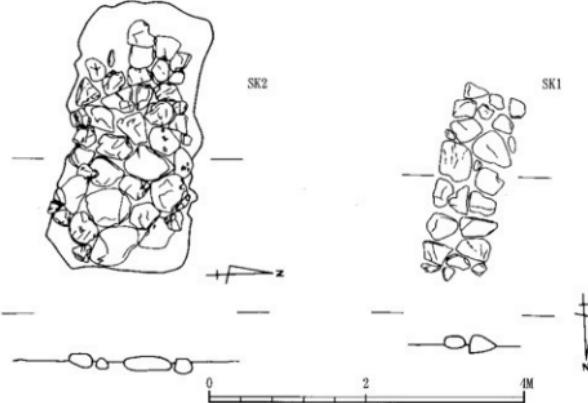


図34 III区SK-1・SK-2平・断面図

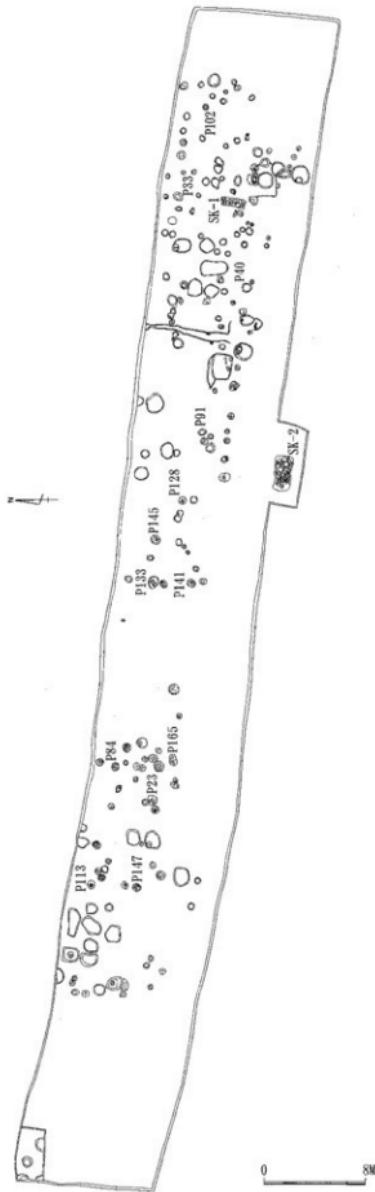


図35 Ⅲ区 遺構平面図

面はナデ調整、外面の中部以上ナデ調整による段が著しい。12・17はP133(平面形は不整円形・直径80~120cm・深さ30cm)で、土師質土器2点が出土している。12は杯で平坦な底部から直線的に立ち上がる。内外面にロクロによるヨコナデ調整が施される。底部は回転糸切りによる切り離しで、外面はナデによる段が著しい。17は小皿で平坦な底部から直線上に立ち上がる。体部は短く、口縁部は丸い。内外面にヨコナデ調整が施され、底部は回転糸切りによる切り離しである。14はP165(平面形は不整円形・直径80~1.20cm・深さ29cm)より出土した土師質土器の杯で、内外面にロクロによるヨコナデ、範磨きにより丁寧に調整されている。円盤状の底部を呈し、斜上直線に立ち上がる。底部は回転糸切りがみられる。15はP23(平面形は不整円形・直径85~96cm・深さ32cm)より出土した土師質土器の杯で内面にはタテナデ、ヨコナデ調整、外面には斜めヨコナデ調整が施されている。平坦な底部より直線上に立ち上がる。底部は摩耗している。16はP128(平面形は円形・直径75~79cm・深さ26cm)より出土した土師質土器の杯の底部で、ロクロによるヨコナデ調整が施されている。特に内面はヨコナデによる段が著しい。底部は回転糸切りである。18はP141(平面形は円形・直径60cm・深さ21cm)より出土した土師質土器の小皿でロクロによるヨコナデ調整が施される。平坦な底部より直線上に立ち上がる。体部は短く丸い。底部は摩耗している。19はP33(平面形は円形・直径90cm・深さ28cm)より出土した土師質土器の小皿でロクロによるヨコナデ調整が施される。平坦な底部より一段、段をつけ体部は短く直線的に立ち上がる。口縁端は丸い。底部には回転糸切りである。20P145(平面形は円形・直径84cm・深さ23cm)備前焼の口縁部の破片である。口縁部で反り接合口縁となる。全体はヨコナデ調整が施される。21はP91(平面形は不整円形・直径62~78cm・深さ36cm)土師質土器の杯の底部でロクロによるヨコナデ調整が施される。平坦な底部より直線上に立ち上がる。内外面にナデによる段が著しい。底部は回転糸切りである。22はP111(平面形は)から出土した土師質土器の羽釜の口縁部の破片で、口縁部に鶴がありやや内湾して口縁部は丸い。23はP102(平面形は円形・直径60~62cm・深さ25cm)から出土した土師質土器の杯でロクロによるヨコナデ調整が施され、底部の切り離しは回転糸切りである。ベタ底からやや段を持ちながら立ち上がり、口縁部端は尖る。外面はナデによる段が顕著である。24はP40(平面形は円形・直径90cm・深さ28cm)から出土した小型の磨製石斧で全長8.05cm、幅2.2cm、厚さ0.9cmを測る。刃部は両側が磨製されている。

(3) 包含層出土遺物(5・6・7・8・9・10・11・13)

遺物包含層より出土した遺物の中で図示できる8点について述べる。6点は、土師質土器で、2点は土師器である。器種は杯4点、小皿4点である。

5は、土師質土器の杯で全体に摩耗している。ロクロによるヨコナデ調整が施されている。平坦な底部から直線的に立ち上がり中部で外反りし、口縁部で直線的になり、先端部は丸くおさめる。6は、土師器の高台付椀で内外面にロクロによるヨコナデ、範調整を施す。7は、土師質土器の小皿でロクロによるヨコナデ調整が施され、平坦な底部から直線的に立ち上がり、体部は短い。口縁部でやや外反する。8も土師質土器の小皿でロクロによるヨコナデ調整を施す。平坦な底部から直線的に立ち上がり、体部は短い。口縁部はやや外反する。底部は回転糸切りである。9は、土師質土器で、全体的に摩耗している。ロクロによるヨコナデ調整は施す。平坦な底部から体部は短く口縁部にいたる。先端は丸くおさめる。10も土師質土器の小皿で、全体に摩滅している。平坦な底部から直線的に立ち上がる。体部は短く、口縁部にいたる。先端は丸くおさめる。11は、土師器の高台付椀の底でロクロによるヨコナデ、範によるナデ施される。13は、土師質土器の杯の底部である。円盤状の底部から直線上に立ち上がり、器面表面にはヨコナデによる調整が施される。底部は回転糸切りである。

第IV章　まとめ

第1節　総括

本章では、南ヶ内遺跡について、第1次、第2次調査により検出された遺構、遺物の結果を踏まえその結果を加味しその性格と時代について考察する。

1. 南ヶ内遺跡の性格と時代

南ヶ内遺跡については第1次、2次調査により主に中世の館(屋敷)跡が確認され、また近世の遺構も確認されている。遺構は確認されていないが、出土遺物の中に弥生時代の土器の細片、石斧、古代の須恵器片、布目瓦片、土師器片が遺物包含層、ピット、井戸跡より出土している。

2. 弥生時代の遺物について

弥生時代の遺構は確認されていないが、遺物包含層から弥生土器片が出土し、また中世のⅡ区の井戸1より太形蛤刃石斧、Ⅲ区のピットより小形の石斧が出土している。Ⅱ区の井戸1からは五輪塔、土師質土器(土釜、杯)が伴に出土している。石斧は中ほど折れた物であるが、折れた部分に磨がみられ後世、人為的な加工が施されている。井戸廐棗に際して五輪塔とともに呪術的な要素に使用されたと考えられる。

3. 中世の遺構・遺物について

南ヶ内遺跡を代表する時代で、特にⅡ区からは12世紀から16世紀にかけての溝に囲まれた館(屋敷)跡が2区画、確認されている。ただし、2館跡の北側の区画の溝跡は未検出となっており、館の3分1が未調査となっている。

確認された館跡のうち西側の屋敷跡は、西側をSD1、東側をSD3、南側をSD4の区画溝に囲まれた中に11棟の掘建柱建物跡が確認でき数回にわたる立替が考えられる。特にSB9は庇が付く中心的な建物である。これを中心として周辺には納屋等付属的な性格の建物とみることができる。また西側、東側の区画溝に並行して目隠し塀が存在し、屋敷北東部分に井戸2がある。出土遺物には土師質土器、青磁、白磁、石硯等が出土し、特に石硯から識字者の存在を裏づける。

調査区東側の屋敷は西側をSD3、南側をSD4、東側を新改側の段丘に区画され、屋敷内の南西部分に井戸1が存在し、井戸内より井戸廐棗にともなう土師質土器、土釜、五輪塔等が出土している。屋敷内からは数棟の掘建柱建物跡が確認でき、特にSB14は中心的な建物跡である。またその周辺には納屋等付属的な建物跡が存在する。

町内では、ひびのきサウジ遺跡⁽¹⁾から山田氏城下町関連と推定される溝に囲まれ区画された屋敷跡が確認されているが、今回は時期的にそれより古く中世の居住空間を考える上で貴重な資料を得ることができた。

第2節　「長宗我部地検帳」からみた南ヶ内周辺について

16世紀頃、本遺跡周辺を長宗我部地検帳でみると現在の熊野神社西側には善勝寺の阿弥陀堂(3間四方)が存在し、阿弥陀堂を中心として周辺には「南坊」「上坊」の付属の坊、寺家ヤシキ、土居ヤシキ、がみられる。小字、南ヶ内には地検帳当時屋敷は存在していない。

註

- (1) 「ひびのきサウジ遺跡Ⅱ」(高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7集) (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1992

造構計測表

掘立建物計測表

造構番号	規 模				面積 (m ²)	棟方向 (N真北)	備 考			
	梁(m) × 桁(m)	梁(m) × 桁(m)	柱間寸法							
			梁(m)	桁(m)						
SB-1	1×2	1.9×6.1	1.9	2.5~3.6	11.59	N - 84° - W	東西棟			
SB-2	2×3	3.4×4.2	1.65~1.7	1.3~1.7	14.28	N - 5° - W	東西棟			
SB-3	1×2	2.3×3.9	2.3~2.4	1.9~2.0	8.97	N - 8° - W	南北棟			
SB-4	1×3	2.5×5.6	2.5	1.8~2.2	14	N - 6° - W	南北棟			
SB-5	1×3	2.2×5.5	2.2	1.8~1.9	12.1	N - 4° - W	南北棟			
SB-6	2×2	4×5	1.9~2.3	2.3~2.7	20	N - 8° - W	東西棟			
SB-7	2×2	3.5×4.5	1.5~2.0	2.2~2.3	15.75	N - 3° - W	南北棟			
SB-8	1×2	2.3×4	2.2~2.3	1.8~2.0	9.2	N - 3° - W	南北棟			
SB-9	2×4	3.3×7.1	1.0~1.8	1.5~2.2	31.62	N - 11° - W	東西棟総柱身舎、 南東側に1×1間の張出			
SB-10	1×2	1.8×3.7	1.8~2.0	1.5~2.3	6.66	N - 9° - W	東西棟			
SB-11	2×2	4.3×4.3	1.9~2.3	1.8~2.4	18.49	N - 12° - W	東西棟			
SB-12	1×2	2.5×5.9	2.5~2.8	2.5~3.9	14.75	N - 12° - W	東西棟			
SB-13	1×2	1.4×3.5	1.4~1.7	1.5~1.9	4.9	N - 15° - W	東西棟			
SB-14	2×4	3.5×9.4	17~17.5	2~2.6	32.9	N - 10° - W	東西棟			
SB-15	1×2	1.7×3.9	1.7	1.5~2.0	6.63	N - 6° - W	東西棟			
SB-16	1×2	2.8×4.3	2.8	2~2.3	12.04	N - 54° - W	東西棟			
SB-17	2×3	4.1×6.8	2~2.1	2~2.8	27.88	N - 12° - W	南北棟			
SB-18	1×3	2.1×6.1	2~2.1	2~2.1	14.64	N - 8° - W	東西棟			
SB-19	1×3	2.6×5.6	2.6	1.8~2	14.56	N - 5° - W	東西棟			

遺物観察表1(Ⅱ区)

番号	実測図 No.	実測 No.	出土地点	遺物・部位	種類	器形	分類	法量(cm)			地質	焼成	色調	特徴、 成形・調理/その他の 状況
								口径	器高	底径				
1	12	II区	P-21	瓦質土器	柄			13.6	3.0	8.0	鶴鐘土器			白コナデ/滑調直
2	22	II区	P-175	土師質土器	小皿			7.6	1.6	5.3	織縫紗質			内面: 2.578/1灰白 外面: 2.578/1灰黄 底面: 2.578/2灰白
3	19	II区	SE-6	土師質土器	小皿			7.0	1.7	5.4	細炒合			内面: 1.928/4灰黄 外面: 1.928/4灰黄
4	17	1	II区	P-112	土師質土器	杯		10.7	3.9	4.5	細炒混じり			内面: 7.577/3灰白 外面: 7.577/2灰黄 底面: 7.576/1灰
5	36	18	II区	SD-1	白磁	杯		1.4	3.6	6.2	織縫紗質	良		内面: 7.577/1灰白 外面: 7.577/2灰白
6	35	27	II区	SD-1	白磁	小皿		7.2	1.8	5.8	織縫紗質			内面: 1.928/2灰白 外面: 1.928/2灰白 底面: 1.928/1灰白
7	3	8	II区	SD-3	土師質土器	杯		11.0	3.7	4.2	織縫質			内面: 1.928/4灰黄 外面: 1.928/3灰白 底面: 1.928/3灰白
8	33	17	II区	SD-5	染付	碗		9.0	5.5	4.8	細炒質			内面: 2.578/1灰白 外面: 2.578/1灰白 底面: 1.928/1灰白
9	21	29	II区	P-55	土師質土器	小皿		7.8	1.3	5.8	3mm小穴合			内面: 1.928/2灰 外面: 1.928/2灰
10	4	5	II区	P-161	土師質土器	杯		14.6	4.2	9.8	紗質			ロクロ/ヨコナデ/氣孔網目により不規
11	14	11	II区	P-214	土師質土器	杯		12.5	5.0	6.2	細炒質			ロクロ/ヨコナデ/回転糸切り
12	5	31	II区	SD-3	土師質土器	杯	(9.4)	(2.9)	4.2	細炒質			内面: 1.928/2灰黄 外面: 1.928/2灰白 底面: 2.577/2灰白	
13	18	33	II区	P-55	土師質土器	杯	(12.0)	(2.6)	6.8	細炒質	不良		ロクロ/回転ヨコナデアリ/回転糸切り	
14	16	34	II区	SD-4	土師質土器	瓶	(8.4)	(1.6)	6.2	紗質			内面: 7.578/4灰黄 外面: 1.928/3灰黄 底面: 1.928/3灰黄	
15	20	25	II区	P-269	土師質土器	小皿		7.0	1.9	4.0	紗質			ロクロ/回転ヨコナデ/全体に塵飛 糸切りなし?
16	9	32	II区	SD-4	土師質土器	杯(底部)							ロクロ/ヘラナデ/回転糸切り	
17	7	19	II区	SE-5	土師質土器	杯	(9.8)	(2.7)	6.8	施縫紗質			内面: 2.578/1灰白 外面: 2.578/1灰黄 底面: 2.578/1灰白	
18	11	4	II区	SD-14	土師質土器	杯	11.4	3.9	6.2	織縫紗質			内面: 1.928/7/3に灰い黄 外面: 1.928/7/3に灰い黄	
19	2	15	II区	SD-4	土師質土器	杯	11.0	3.7	7.0	細炒質			ロクロ/ヨコナデ/回転糸切り	
20	12	13	II区	SD-1	土師質土器	杯	14.6	3.9	6.8	紗質			ロクロ/ヨコナデ/回転糸切り/全體に塵飛	
21	10	20	II区	SE-5	土師質土器	杯	10.4	4.5	6.2	織縫紗質			内面: 2.578/4灰 外面: 1.928/3灰	
22	30	57	II区	SE-1	信楽焼		25.0	(8.2)	-	4mm小穴合			内面: 2.578/1灰 外面: 1.928/3灰黄 底面: 2.578/2灰白 裏面: 2.578/2灰白	
23	13	35	II区	SD-7	土師質土器	杯	(10.0)	(2.8)	6.4	粗粒紗面じり			内面: 1.928/3灰黄 外面: 1.928/3灰黄 底面: 1.928/3灰黄	
24	6	37	II区	TR-2	土師質土器	杯	12.8	3.9	7.4	精緻地土 (水謹)	良好(緑)		内面: 2.578/3灰黄 外面: 2.578/3灰黄 底面: 2.578/3灰黄	
25	29	58	II区	SE-1	信楽焼	瓶	(16.0)	(3.4)	1.6	右肩含む 紗質	良好		内面: 2.578/4灰 外面: 2.578/4灰 底面: 2.578/4灰	
26	28	59	II区	SE-1	信楽焼	瓶	(34.0)	(4.8)	28.4	最大3mm縫合	良好		内面下から上にナメ/内面ヨコナデ 外面下から上にナメ/一部微調直/内面ヨコナデ/縫合	

遺物観察表2(Ⅱ区)

番号	実測図 No.	写真 No.	出土地点	遺構・層位	種類	基盤	分類	法量(cm)			始土	焼成	色調	特徴 成形/調査/その他
								口径	高さ	底径				
27	31	60	Ⅱ区	P-310	衛前坑	甕	-	(4.8)	(11.0)	(5.4)	埋込じり 石英含む	良好	内面:SY6/4に深い凹 外面:SY5/3に深い凹 底面:SY6/4に深い凹	内面ヨコナデ 外側ヨコナデ
28	34	38	Ⅱ区	SD-3	青磁	甕	-	(4.2)	-	-	-	良好	内面:SY6/2にオリーブ 外面:SY6/2にオリーブ 底面:SY7/1灰白	内面ヨコナデ
29	38	43	Ⅱ区	P-126	白磁	-	-	(4.8)	-	-	-	-	内面:10Y7/1灰白 外面:7.5G9/1灰白 底面:10Y7/1灰白	内面ヨコナデ
30	25	66	Ⅱ区	P-234	土師質土器	甕	22.4	(5.5)	-	-	-	-	内面:SY6/2灰白 外面:SY7/1灰白 底面:7.5Y7/1	内面ヨコナデ
31	41	42	Ⅱ区	P-135	青磁	甕	8.2	(4.9)	-	-	-	-	内面:SY6/1オリーブ灰 外面:2.5G8/1オリーブ灰 底面:3.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
32	39	40	Ⅱ区	SD-4	青磁	甕	-	(4.7)	-	-	-	-	内面:7.5Y7/1オリーブ 外面:7.5Y7/1オリーブ 底面:SY8/1灰白	内面ヨコナデ
33	40	41	Ⅱ区	TH-2	青磁	-	11.2	(3.5)	-	-	-	-	内面:SY5/4オリーブ 外面:SY6/2オリーブ 底面:2.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
34	37	39	Ⅱ区	SK-10	青磁	甕	-	(4.0)	-	-	-	-	内面:10Y7/2オリーブ灰 外面:10Y7/2オリーブ灰 底面:2.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
35	42	71	Ⅱ区	P-58	青磁	甕	16.6	6.6	5.8	-	-	-	内面:2.5G7/3オリーブ灰 外面:2.5G7/3オリーブ灰 底面:2.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
36	27	56	Ⅱ区	P-175	青磁 口縁部	甕 口縁部	16.0	(4.8)	-	埋込じり	良好	内面:2.5Y6/1黄灰 外面:2.5Y6/1黄灰	ロクロ/口縁ヨコナデ/ 口縁部ヨコナデ	
37	23	34	Ⅱ区	P-254	土師質土器	小甕	7.6	1.6	5.2	埋込粘土	やや良	内面:10Y6/2に深い黒 外面:10Y6/2に深い黒	ロクロ/軽軋ヨコナデ/内面ヨコナデ	
38	15	14	Ⅱ区	P-278	土師質土器	甕	(10.4)	(3.2)	6.4	埋込鉢	やや良	内面:2.5Y6/2灰褐色 外面:10Y6/2灰褐色	ロクロ/内面ヨコナデ/内面ヨコナデ	
39	26	69	Ⅱ区	SE-1	土師質土器	土瓶	-	(19.9)	-	-	-	-	内面:10Y6/2灰褐色 外面:7.5Y7/24C灰褐色 底面:7.5Y7/24C灰褐色	ロクロ/内面ヨコナデ/内面ヨコナデ
40	8	35	Ⅱ区	SD-14	土師質土器	甕	(11.6)	(2.1)	6.4	埋込甕	-	-	内面:2.5Y8/2浅黄褐 外面:2.5Y8/2浅黄褐 底面:2.5Y8/2浅黄褐	ロクロ/内面ヨコナデ/内面ヨコナデ
41	32	44	Ⅱ区	SK-1	甕付	高台付甕	13.0	3.2	6.4	-	-	-	内面:SY7/1栗褐色 外面:5G7/2栗褐色 底面:2.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ/高台部下のみ褐色なし
42	46	61	Ⅱ区	SD-1	市貝瓦	平瓦	-	-	-	-	-	-	内面:SY6/1灰 外面:SY6/1灰 底面:SY6/1灰	内面ヨコナデ
43	49	62	Ⅱ区	SD-1	市貝瓦	平瓦	-	-	-	-	-	-	内面:7.5Y7/1灰 外面:7.5Y7/1灰 底面:7.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
44	44	55	Ⅱ区	SD-1	市貝瓦	平瓦	-	-	-	-	-	-	内面:2.5Y7/1灰 外面:3.5Y7/1灰 底面:3.5Y7/1灰白	内面ヨコナデ
45	24	65	Ⅱ区	II解ホ	瓦器	口縁	-	(2.5)	-	最大7mm埋合	-	-	内面:SY7/1灰白 外面:SY8/2灰白 外底:SY7/1灰白 縫合:SY8/2灰白 底面:SY8/2灰白	内面ヨコナデ/外側にヘラによるナデ/ 内面には苟目痕
46	43	68	Ⅱ区	SK-1	尾仏	-	2.5	2.7	2.0 (高さ) (幅) (厚さ)	-	-	-	-	-
47	49	67	Ⅱ区	SI-06	儀	-	11.2	4.1	6.8 (全長) (全幅)	-	-	-	-	-
48	48	72	Ⅱ区	SK-1	石斧	-	19.4	8.0	4.4 (全長) (全幅)	-	-	-	-	-
49	51	75	Ⅱ区	SE-1	玉輪塔	-	20.8	15.4	12.2 (全長) (全幅)	-	-	-	-	-
50	50	74	Ⅱ区	SE-1	五輪塔	-	17.3	12.7	11.3 (全長) (全幅)	-	-	-	内面:SY6/0灰 外面:SY6/0灰 底面:SY7/1灰白	内面ヨコナデ
51	47	70	Ⅱ区	P-303	瓦	軒平瓦	-	-	-	-	-	-	-	-

遺物観察表3(Ⅲ区)

番号	実測図 No.	写真 No.	出土地点	遺構・層位	種類	特徴	分類	法値(cm)			胎土	焼成	色調	特徴 成形/焼成/その他
								口径	器高	底径				
1	1	3	Ⅲ区	P-84	土師質土器	杯		14.2	3.7	8.6	1cm程度 小石含む		内面：10957/4に古い黄褐色 外面：7.37m/4浅黄褐色	ロクロ/削粘ナナ/削粘み切り
2	2	8	Ⅲ区	P-47	土師質土器	杯		14.3	4.7	7.0	細砂底じり		内面：10956/4浅黄褐色 外面：7.37m/4浅黄褐色 外面：7.37m/4浅黄褐色	ロクロ/削粘ナナ/削粘み切り
3	12	9	Ⅲ区	P-47	土師器	杯		15.8	3.8	7.6	細砂質		内面：7.37m/7浅褐色 外面：7.37m/7浅褐色	ロクロ/削粘ナナ/削粘み切り
4	4	7	Ⅲ区	P-113	土師質土器	杯		12.0	3.9	6.8	細砂質		内面：10958/4浅黄褐色 外面：10958/4浅黄褐色 外面：10958/4浅黄褐色	ロクロ/削粘ナナ/風部磨耗差し不規則(如板水切り?) 内面はナマ
5	3	21	Ⅲ区	II層中	土師質土器	杯		13.8	4.8	7.0	細砂底		内面：7.37m/7に古い黄褐色 外面：10959/4浅黄褐色 外面：7.37m/7浅黄褐色	ロクロ/ヨコナナ/全体に磨耗/底部磨耗により不明
6	5	49	Ⅲ区	II層中	土師器	系付瓶	(11.2)	(2.9)	6.4	砂質 3mm小石含む	丸	内面：7.37m/7浅黄褐色 外面：7.37m/7浅黄褐色 外面：7.37m/7灰白色	ロクロ/ヨコナナ	
7	21	28	Ⅲ区	II層中	土師質土器	小瓶		7.2	1.7	2.7	砂質 4mm小石含む		内面：10932/4浅黄褐色 外面：10932/4浅黄褐色 外面：10932/4浅黄褐色	ロクロ/ヨコナナ
8	18	22	Ⅲ区	II層中	土師質土器	壺		10.3	1.7	6.8	砂質		内面：2.37m/3浅黄褐色 外面：2.37m/3浅黄褐色 外面：2.37m/3灰白色	ロクロ/ヨコナナ/削粘み切り
9	20	30	Ⅲ区	II層中	土師質土器	小皿		6.7	1.4	(4.0)	砂質		内面：10958/4浅黄褐色 外面：2.37m/4浅黄褐色 外面：2.37m/4灰白色	ロクロ/ヨコナナ/全体に磨耗
10	15	26	Ⅲ区	II層中	土師質土器	小皿		7.7	1.1	4.4	細砂質		内面：10957/4浅黄褐色 外面：7.37m/4浅黄褐色 外面：7.37m/4浅黄褐色	ロクロ/ヨコナナ/全体に磨耗/底部は擦耗により不明
11	7	50	Ⅲ区	II層中	土師器	杯	(10.6)	(1.6)	6.8	砂質	不良	内面：1097/3に古い黄褐色 外面：7.37m/3浅黄褐色 外面：1097/3灰白色	ロクロ/ヨコナナ	
12	11	10	Ⅲ区	P-133	土師質土器	杯	(14.4)	(4.3)	7.2	砂質	やや不良	内面：2.37m/3灰白色 外面：2.37m/3灰白色 外面：7.37m/4浅黄褐色	ロクロ/ヨコナナ/削粘み切り	
13	9	54	Ⅲ区	II層中	土師質土器	底盤	(5.5)	(2.4)	4.6	細砂質	不良	内面：2.37m/3浅黄褐色 外面：2.37m/3浅黄褐色 外面：2.37m/3灰白色	ロクロ/ヨコナナ/削粘あり	
14	8	52	Ⅲ区	P-165	土師質土器	杯	(12.4)	(3.9)	6.6	1cm小石含む	良好	内面：1097/3に古い黄褐色 外面：1098/3灰白色 外面：1097/3に古い黄褐色	ロクロ/削粘ヨコナダアリ/削粘み切りでないヘラ書き	
15	14	53	Ⅲ区	P-23	土師質土器	底盤	(9.4)	6.2	(3.6)	2mm程度 小石含む		内面：7.37m/4浅黄褐色 外面：7.37m/4灰白色 外面：7.37m/4灰白色	ロクロ/削粘ヨコナダ/内面ヨコナダがみられる/外面はナマヨコナダ/底盤は擦耗	
16	6	48	Ⅲ区	P-128	土師質土器	杯	(9.0)	(2.4)	5.6	細砂質	良好	内面：1097/3に古い黄褐色 外面：1097/3に古い黄褐色 外面：1097/3に古い黄褐色	ロクロ/削粘ヨコナダ/外面ヨコナダがみられる/外面はヨコナダ、ハラミガキあり/内面はヨコナダ	
17	17	47	Ⅲ区	P-153	土師質土器	壺	8.4	1.5	6.0	燒結黏土 小砂	良好	内面：2.37m/3浅黄褐色 外面：1097/3に古い黄褐色 外面：2.37m/3灰白色	ロクロ/削粘ヨコナダ/削粘み切り/外面ヨコナダ	
18	19	45	Ⅲ区	P-141	土師質土器	小瓶	9.2	1.6	5.6	細砂質	不良	内面：1092/3浅黄褐色 外面：1092/3浅黄褐色 外面：1092/3浅黄褐色	ロクロ/削粘ヨコナダ/内面底盤ヨコナダ/外面ヨコナダ	
19	16	46	Ⅲ区	P-33	土師質土器	小皿	7.2	1.0	2.3	細砂質	不良	内面：1092/3浅黄褐色 外面：1092/3に古い黄褐色 外面：1092/3浅黄褐色	ロクロ/削粘ヨコナダ/削粘み切り	
20	22	63	Ⅲ区	P-145	骨質器	口縁部	8.6	(3.6)	-	粗粒砂底じり	良好	内面：2.37m/3灰白色 外面：2.37m/3灰白色 外面：7.37m/6灰白色	ヨコナダ	
21	10	51	Ⅲ区	P-91	土師質土器	杯	(10.4)	(1.7)	7.0	細砂質	やや不良	内面：1097/3に古い黄褐色 外面：1097/3に古い黄褐色 外面：1097/3浅黄褐色	ロクロ/削粘ヨコナダ/削粘み切り	
22	23	64	Ⅲ区	P-111	土師質土器	羽茎	14.8	(3.5)				内面：7.37m/4灰白色 外面：7.37m/4灰白色 外面：1097/4灰白色		
23	13	6	Ⅲ区	P-102	土師質土器	杯	12.0	3.7	7.5	細砂質		内面：1093/3浅黄褐色 外面：1093/4浅黄褐色 外面：7.37m/6灰白色	ロクロ/削粘ヨコナダ/削粘み切り	
24	24	73	Ⅲ区	P-69	石斧		8.05	2.2	0.9					

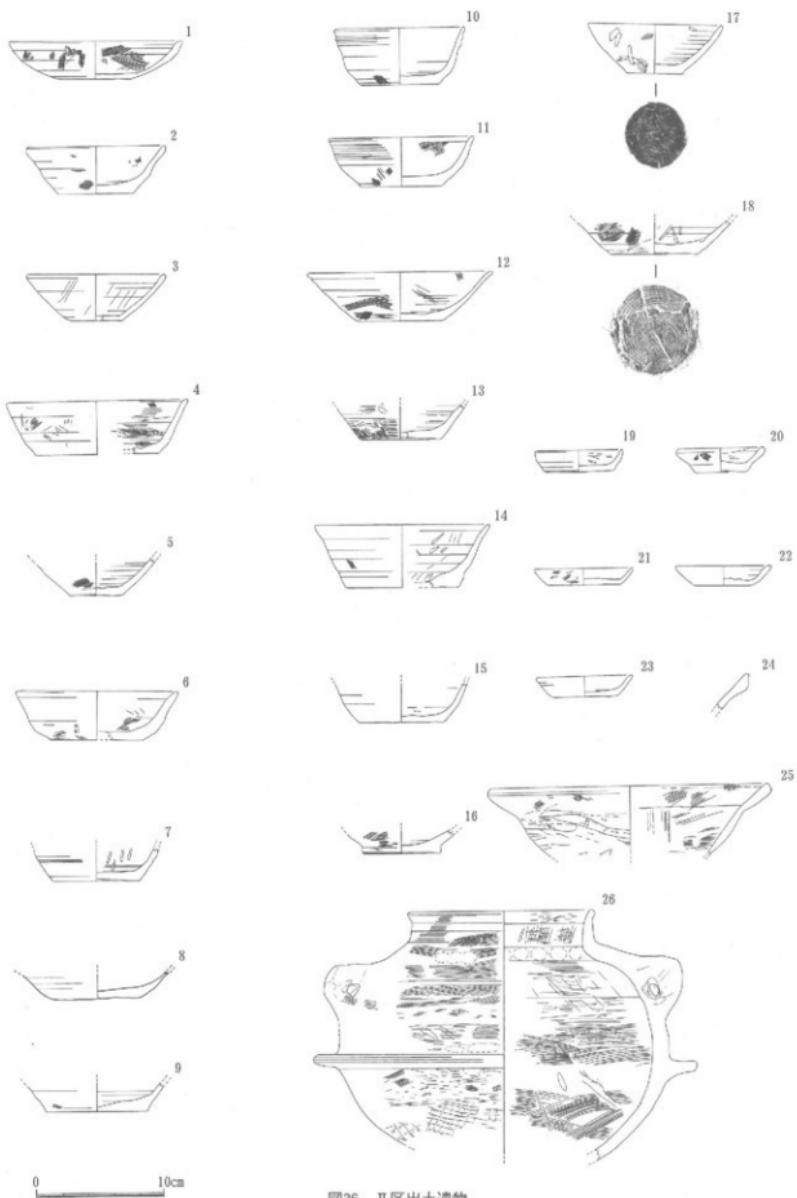


図36 II区出土遺物

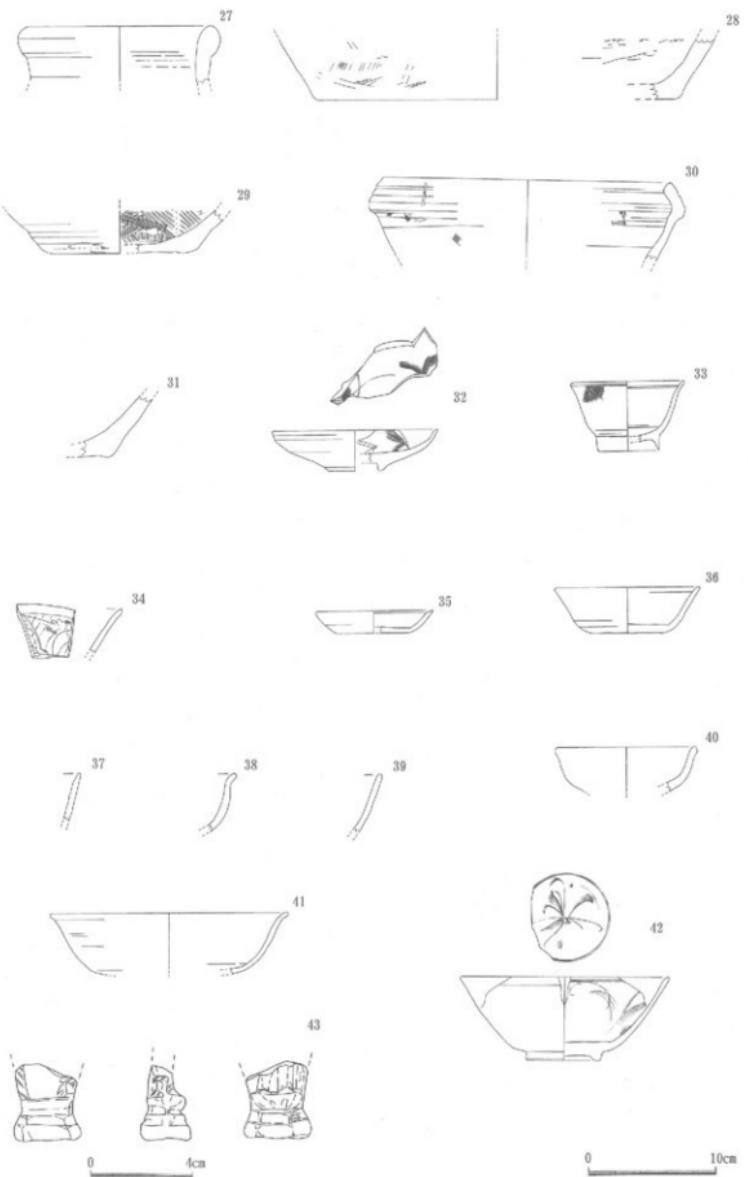


图37 II区出土遗物

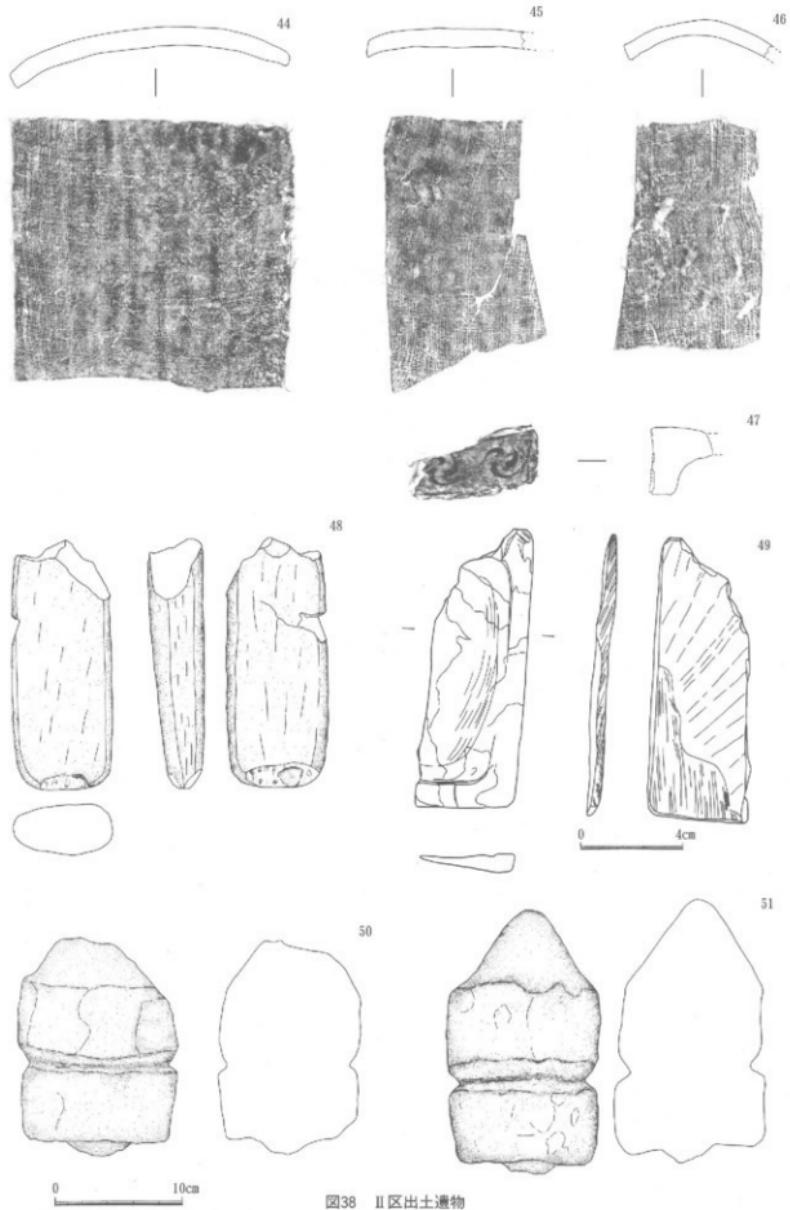


図38 II区出土遺物

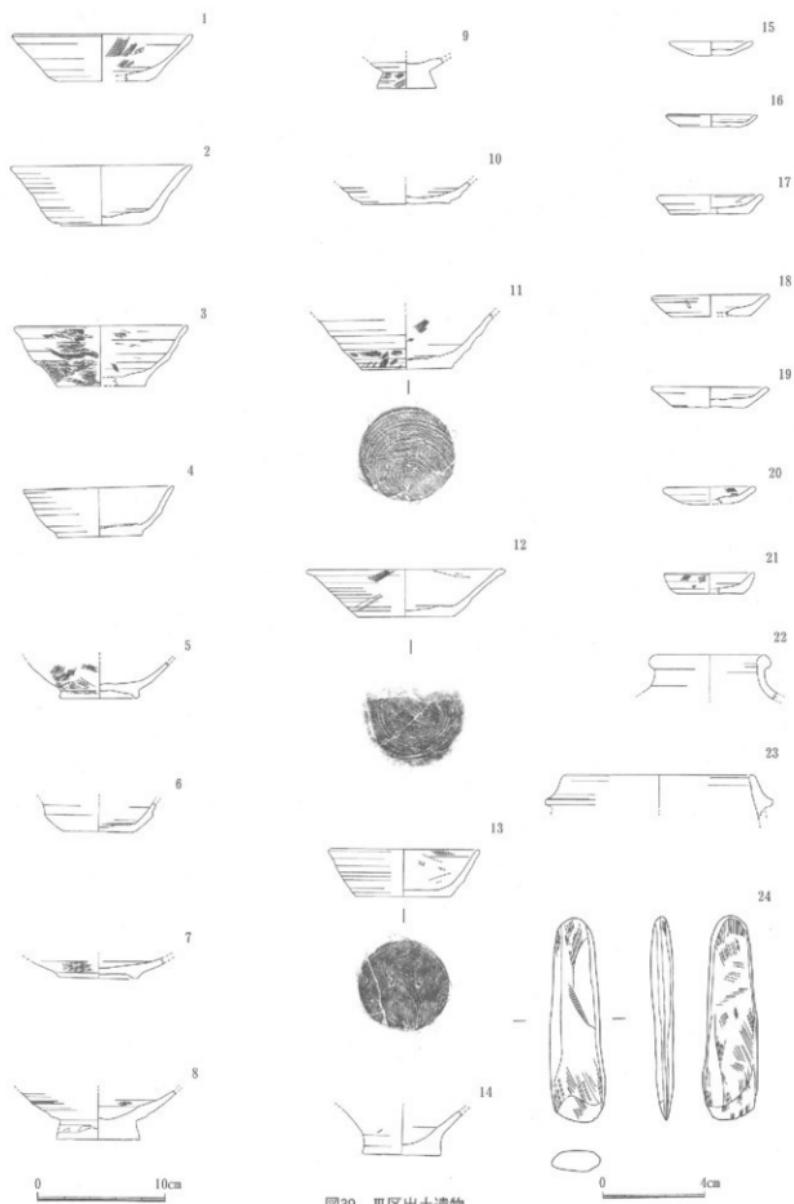


图39 Ⅲ区出土遗物

図 版



II区 遺構検出状態



II区 SD1・SD2 遺構検出状態



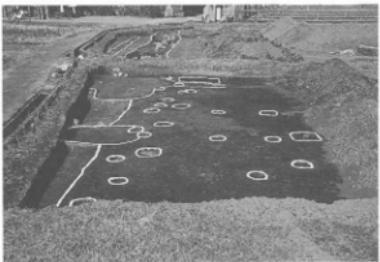
II区 SD1・SD2 完掘状況



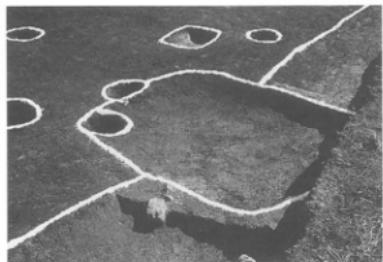
II区 SD1・SD2 完掘状況



II区 SD2・ピット遺構検出状態



II区 SD2・ピット遺構完掘状況



II区 SX1 完掘状況



II区 セクション



II区 遺構検出状態



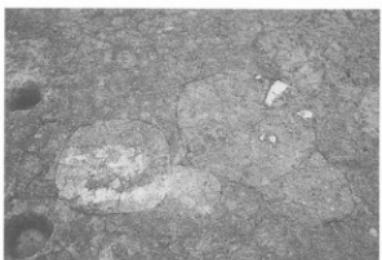
II区 遺構検出状態



II区 遺構検出状態



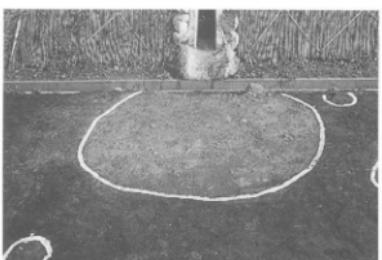
II区 遺構検出状態



II区 ピット検出状態



II区 SK5 完掘状況



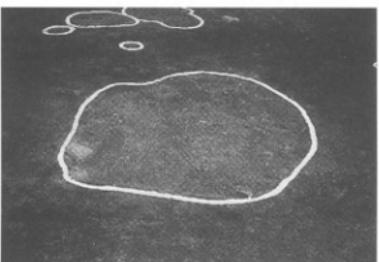
II区 SE1 遺構検出状態



II区 SE1 完掘状況



II区 SE2 断面状況



II区 SE1 遺構検出状態



II区 SE1 上部状況



II区 SE1 上部状況



II区 SE1 完壊状況



II区 SE1 断面状況



II区 SD1 遺物出土状況



II区 SD1 遺物出土状況



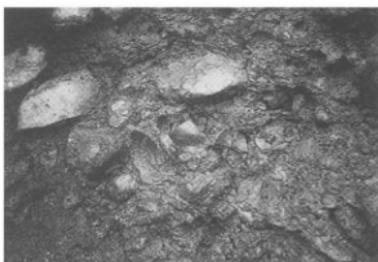
II区 SD1 遺物出土状況



II区 SD1 遺物出土状況



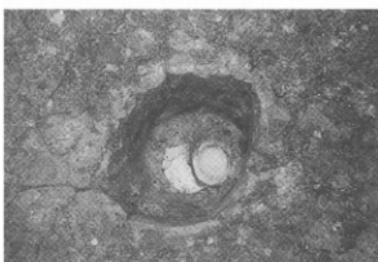
II区 SE1 遺物出土状況



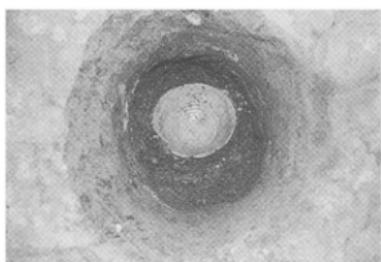
II区 SE1 遺物出土状況



II区 SE1 遺物出土状況



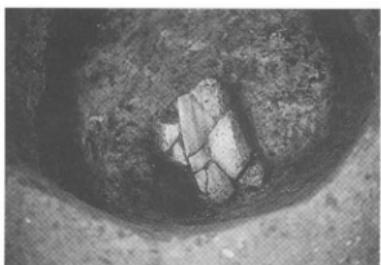
II区 P55 遺物出土状況



II区 P112 遺物出土状況



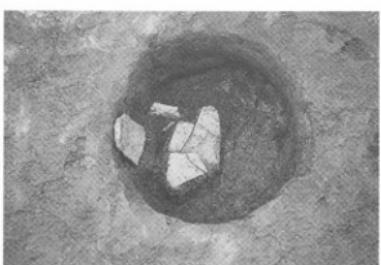
II区 P214 遺物出土状況



II区 P161 遗物出土状況



II区 SX6 遗物出土状況



II区 P234 遗物出土状況



II区 SD7 遗物出土状況



II区 SD7 遗物出土状況



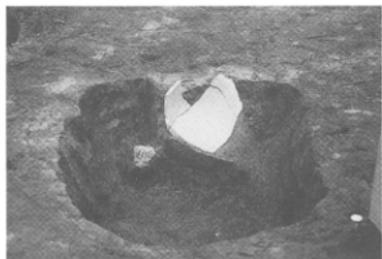
II区 SX6 遗物出土状況



II区 SX6 遗物出土状況



II区 P269 遗物出土状況



II区 P88 遺物出土状況



II区 P21 遺物出土状況



III区 遺構検出状態



III区 遺構検出状態



III区 遺構検出状態



III区 遺構検出状態



III区 遺構完掘状況



III区 遺構完掘状況



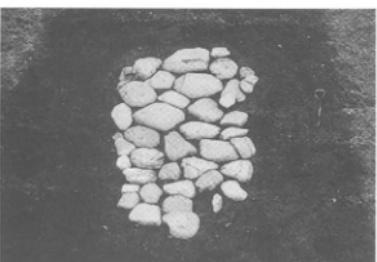
III区 遺構完掘状況



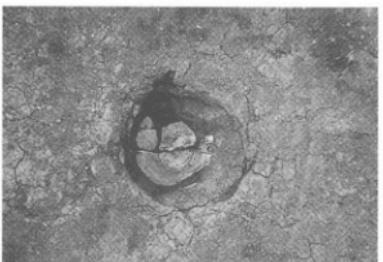
III区 遺構完掘状況



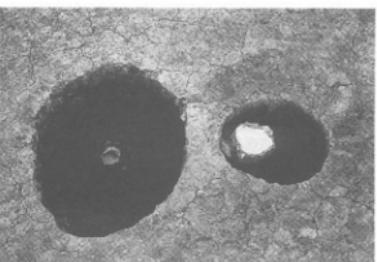
III区 SK1 完掘状況



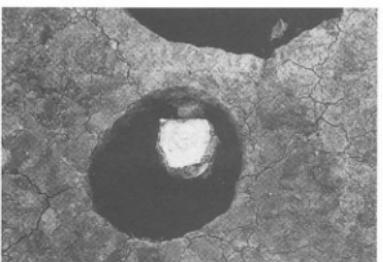
III区 SK2 完掘状況



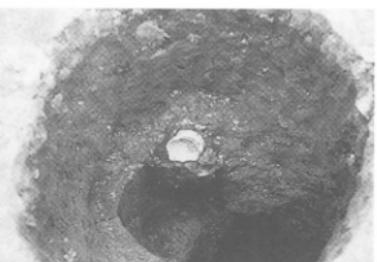
III区 P47 遺物出土状況



III区 P23(左)・P133(右) 遺物出土状況



III区 P133 遺物出土状況



III区 P23 遺物出土状況



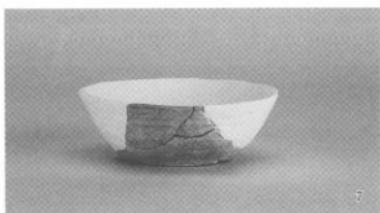
1



6



2



7



3



8



4



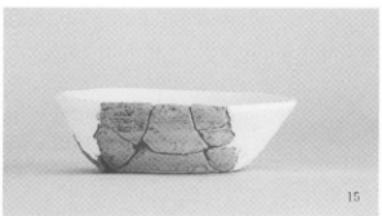
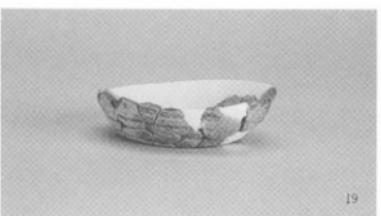
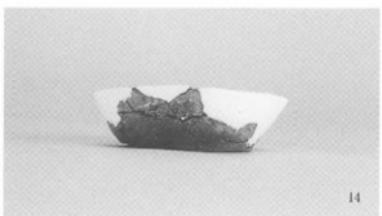
9



5

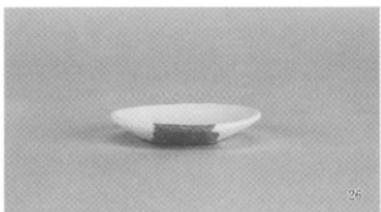


10

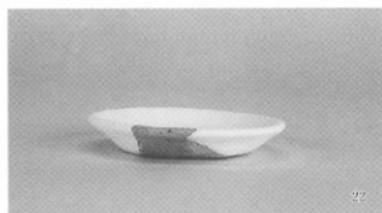




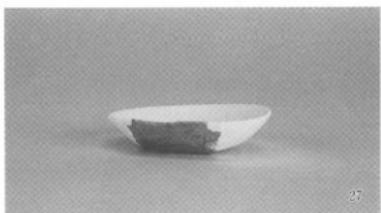
21



26



22



27



23



28



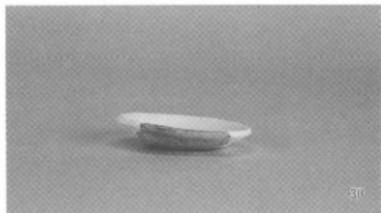
24



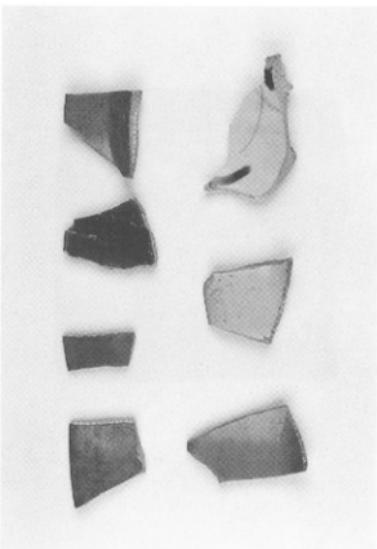
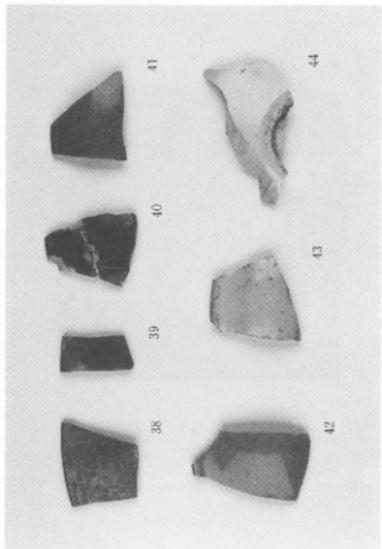
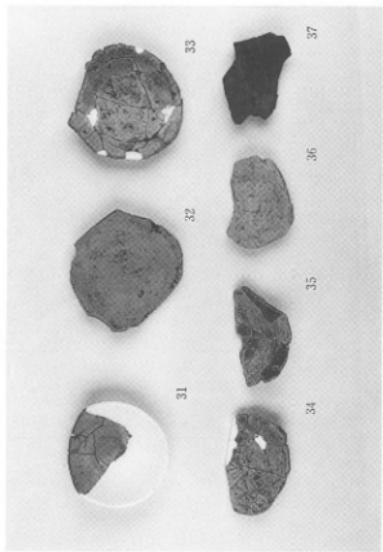
29

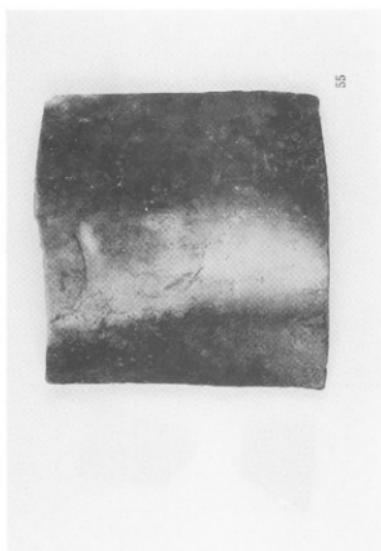


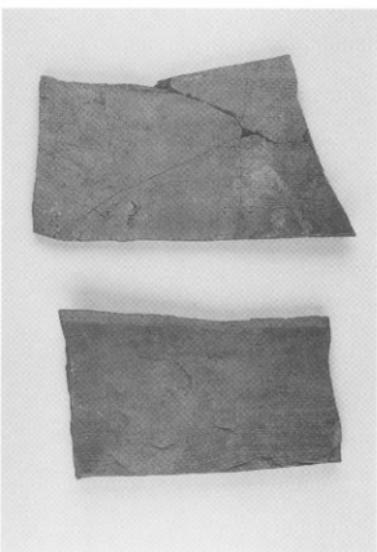
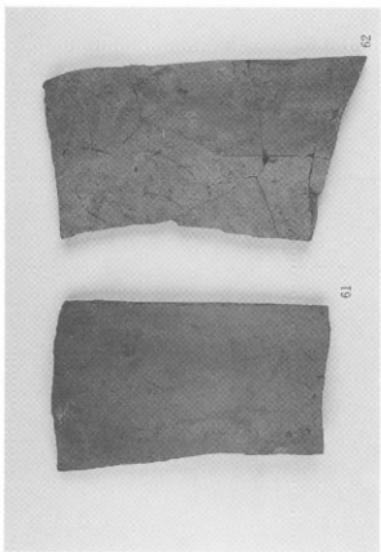
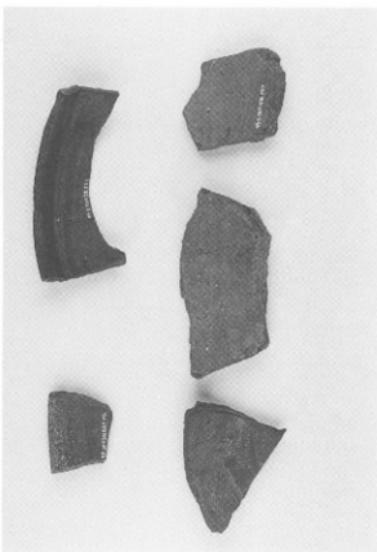
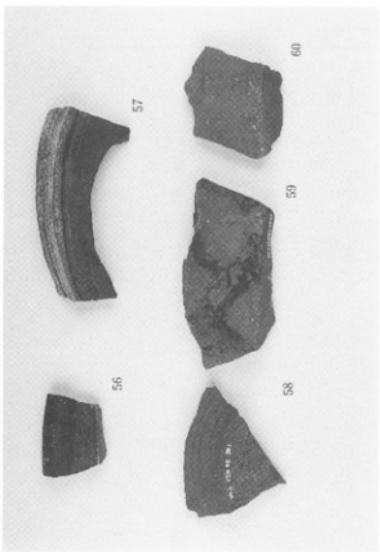
25

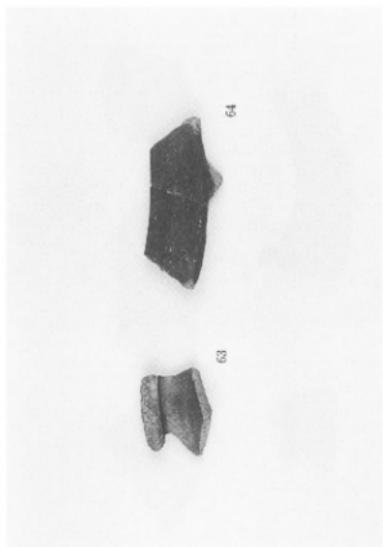


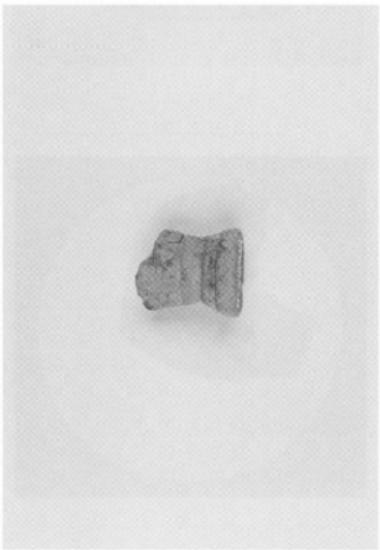
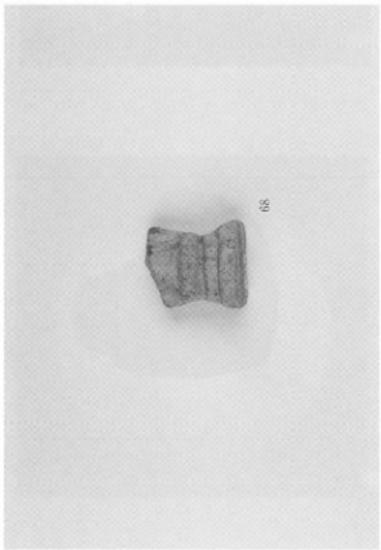
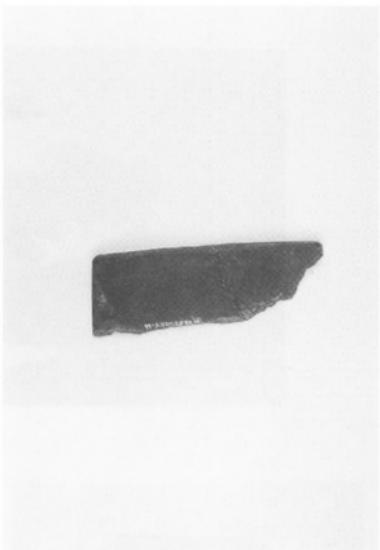
30









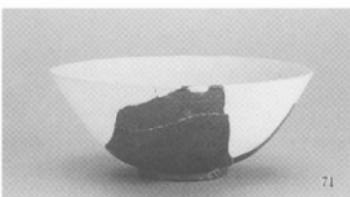




69



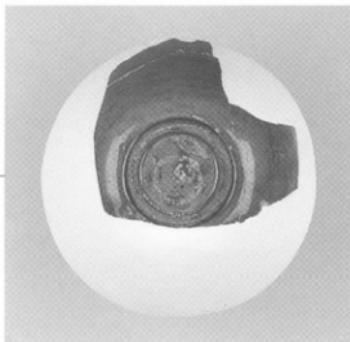
70



71

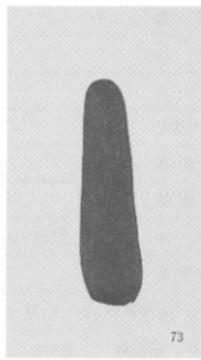


71





72



73



74



75

報告書抄録

ふりがな								
書名	新改南ヶ内遺跡							
副書名	新改中部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第31集							
編著者名	中山泰弘							
編集機関	土佐山田町教育委員会							
所在地	〒782-00 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 TEL(0887)53-3111							
発行年月日	西暦2001年10月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
新改南ヶ内 遺跡	高知県香美郡 土佐山田町 新改字南ヶ内 460	393231	190054	33° 37' 47"	133° 40' 63"	試掘調査 19970910 19971203 発掘調査1次 19981001 19990122 2次 19990514 19991004	3,940m ²	新改中部地区 県営圃場整備 事業に伴う 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
新改南ヶ内 遺跡	集落	中世	掘立柱建物跡 溝 井戸 横列 土壤 ピット	19棟 13条 2基 6	土師質土器・備前焼・ 白磁・青磁・瓦質土 器・石斧・五輪塔	溝に区画された掘立 柱建物群を多数検出。		

新改南ヶ内遺跡II区遺構図（附図）



新改南ヶ内遺跡

新改中部地区県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年10月31日

編集・発行 高知県土佐山田町教育委員会
高知県香美郡土佐山田町岩積365-1
電話 (0887)53-3111 (代)

印刷 川北印刷株式会社